

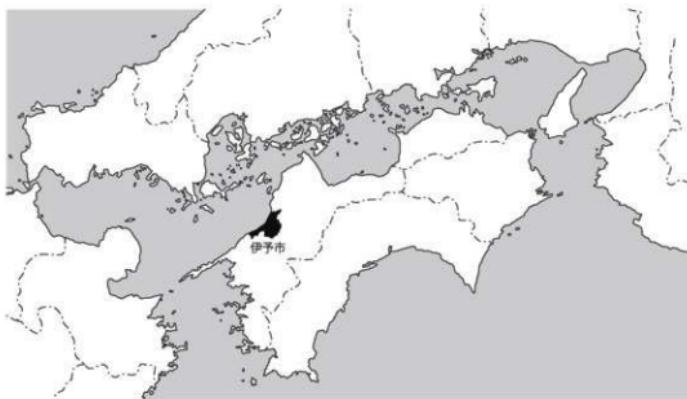
# 伊予市内遺跡詳細分布調査報告書IV

—平成27・28年度伊予市内遺跡発掘調査等事業報告書—

2020年3月  
愛媛県伊予市教育委員会

# 伊予市内遺跡詳細分布調査報告書IV

—平成27・28年度伊予市内遺跡発掘調査等事業報告書—



2020年3月  
愛媛県伊予市教育委員会



## 序 文

時代は平成から令和へと移り変わり、文化財保護法の改正に代表されるように、文化財行政を取り巻く環境は大きく変化しております。平成27年度から伊予市単独事業として継続することとなった伊予市内遺跡詳細分布調査も、令和元年度で5年目となりましたが、平成28・29年度には(仮称)中山スマートインターチェンジの建設事業に伴う発掘調査を実施し、今年度は伊予市の新しい文化施設『IYO夢みらい館(伊予市文化交流センター)』が開館するなど、伊予市の文化財行政を取り巻く状況も大きく変化した5年間でした。

このようなめまぐるしい変化のなか、平成27年度と28年度の調査成果をこのようにして報告できますのも、ひとえに市民の皆様の文化財行政への御理解の賜物と存じます。伊予市ののみならず国民の貴重な財産である埋蔵文化財を守っていくために、今後も、本事業を通して埋蔵文化財の保護・啓発に努める所存です。

最後に、本事業を進めるにあたり御協力を頂きました関係諸機関や市民の皆様方に対し、厚く御礼申し上げます。

令和2年3月31日

伊予市教育長 渡邊 博隆



## 例　　言

1. 本報告書は、伊予市教育委員会が平成27・28年度に実施した、伊予市内遺跡詳細分布調査の成果報告書である。
2. 各遺跡の位置図は、縮尺1:5,000の伊予市全図(国際航業株式会社調整 平成27年3月測図)を原図に用いた。いずれも図面上の上方向が北となる。
3. 遺跡の所在地は、地籍図の記載に則った。遺跡立地の地形区分は、開発地域土地分類基本調査(愛媛県)の地形分類図(郡中・大洲・松山南部)をもとに記載した。
4. 本報告書で使用する包蔵地番号は、国庫補助事業により整理した伊予市埋蔵文化財包蔵地調査カードの番号である。令和元年5月1日時点での台帳を作成していない調査地については、仮番号をアルファベットで振った。
5. 伊予市内を3地区に区分し、市町合併前の伊予市を伊予地区、中山町を中山地区、双海町を双海地区とした。
6. 本報告書の執筆と編集は、島崎達也が担当した。試掘調査の成果は、高橋二葉と水木崇行が平成27・28年度に沖野新一、西岡若水の協力を得て作成した調査報告書とともに、島崎達也が執筆した。山城調査の成果については、戦乱の空間編集局 日和佐宣正氏に縄張り図作成と執筆を依頼した。
7. 遺物実測図と拓本は島崎達也が作成した。トレース作業は島崎達也と松本美香が担当した。遺物の水洗と註記は作業員 影浦さおりが担当した。
8. 遺物実測図の縮尺は、1/2または1/3とした。俯瞰撮影した遺物写真の縮尺は、1/1または1/2とした。
9. 踏査時や試掘調査時の写真は高橋二葉と水木崇行が撮影した。上灘窯跡の借用した採集遺物(写真9~11)については、平成28年度に水木崇行が撮影した。その他の遺物写真は島崎達也が撮影した。
10. 調査に関わる記録などおよび出土遺物は、伊予市教育委員会が保管している。

11. 令和元年度の伊予市遺跡詳細分布調査委員会の委員から、遺物の所見や、本報告書の内容全般についての助言を得た。

三吉秀充 委員長

石岡ひとみ 委員

岡田敏彦 委員

門田真一 委員

12. 現地調査、整理作業、報告書作成などにおいて、多くの方々から御協力、御所見、御助言をいただいた。以下に記して感謝申し上げる(敬称略・五十音順)。

石田カツミ 石田 肇 石貫弘泰 磯田昌三 井出窟理 上岡貞義 沖野 実 木曾博機

小玉亜紀子 児玉 博 下岡和雄 高本岩王 多田 仁 玉井光憲 戸田訓弘 富田尚夫

長田直一 中野良一 西村暢人 西山 学 平井秀策 真鍋昭文 峰本洋史 棚井幸男

山内英樹 山田武志 山本光信 柚山俊夫 吉岡和哉 若松一心 若松進一

## 本文目次

第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の体制	1
第3節 事業計画	2
第4節 調査の方法	2
第2章 調査地域の環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	4
第3章 平成27・28年度調査の概要	7
第1節 平成27年度調査	10
(1)現地踏査の成果	10
(2)試掘調査の成果	19
第2節 平成28年度調査	29
(1)現地踏査の成果	29
(2)試掘調査の成果	32
第4章まとめ	41

## 挿図目次

図1 伊予市周辺地形概要図	3	図12 合之森城跡縄張り図	18
図2 調査遺跡位置図	9	図13 高野川調査地位置図	19
図3 上吾川八幡池遺跡調査地位置図	10	図14 土層柱状図	19
図4 須恵器実測図	10	図15 東峰遺跡第4地点周辺調査地位置図	19
図5 米湊・尾崎周辺調査地位置図	11	図16 平成27年度調査地位置	
図6 須恵器・陶器実測図	12	およびトレンチ配置図	20
図7 土師器・須恵器実測図	13	図17 土層柱状図	22
図8 上灘窯跡調査地位置図	15	図18 市ノ坪池遺跡調査地位置	
図9 ハマ断面実測図	16	およびトレンチ配置図	23
図10 安久寺城跡縄張り図	17	図19 土層柱状図	23
図11 立帽子岳城跡縄張り図	18	図20 土層柱状図	24

図21 池田遺跡調査地位置 およびトレンチ配置図	25	図30 T-1土層柱状図	32
図22 土層柱状図	26	図31 総津遺跡の北方調査地位置 およびトレンチ配置図	33
図23 尾崎大人池遺跡調査地位置 およびトレンチ配置図	27	図32 須恵器実測図	33
図24 土層柱状図	28	図33 土層柱状図	34
図25 黒山城跡縄張り図	29	図34 伊曾能神社遺跡調査地位置図	34
図26 天山下城跡縄張り図	30	図35 トレンチ配置図	35
図27 土師器実測図	31	図36 土層柱状図	35
図28 上三谷遺跡調査地位置図	32	図37 平成28年度トレンチ配置図	37
図29 トレンチ配置図	32	図38 土層柱状図 高見Ⅱ遺跡周辺	38
		図39 土層柱状図 東峰遺跡第4地点	39

## 挿 表 目 次

表1 伊予市遺跡詳細分布調査委員会	1	表5 平成28年度調査遺跡一覧	8
表2 伊予市教育委員会事務局社会教育課	1	表6 掲載遺物観察表(土器など)	43
表3 事業計画一覧	2	表7 掲載遺物観察表(石器)	44
表4 平成27年度調査遺跡一覧	7		

## 写 真 目 次

写真1 石器	10	写真15 T-1土層断面	24
写真2 墓地表採土器	12	写真16 T-2土層断面	24
写真3 窯道具と型紙染付碗	13	写真17 T-1土層断面	26
写真4 出土地点1	13	写真18 T-2土層断面	26
写真5 出土地点2	13	写真19 T-1土層断面	28
写真6 多字一石経表面墨書	14	写真20 T-3土層断面	28
写真7 多字一石経裏面墨書	14	写真21 T-5土層断面	28
写真8 平成27年度採集のハマ	16	写真22 土師器外底部	31
写真9 型紙染付碗	16	写真23 T-1土層断面	32
写真10 焼台	16	写真24 T-1土層断面	35
写真11 手描染付碗と型紙染付碗	16	写真25 T-2土層断面	35
写真12 トレンチ土層断面	19	写真26 T-4土層断面	35
写真13 T-1土層断面	24	写真27 T-10 IV層出土安山岩礫石器	40
写真14 T-2土層断面	24		

# 第1章 調査の経過

## 第1節 調査に至る経緯

平成23年度から26年度にかけて伊予市教育委員会(以下、「伊予市教委」と称する。)が国庫補助事業で実施した伊予市内遺跡発掘調査事業において、伊予市内の埋蔵文化財包蔵地カードを見直すとともに、踏査などによる分布調査を実施した結果、伊予市内の埋蔵文化財包蔵地は319箇所となった。調査成果は、平成26年度末までに刊行された3冊の報告書と2枚の伊予市埋蔵文化財包蔵地図にまとめられた。平成27年度には、愛媛県教育委員会(以下、「県教委」と称する。)に対して国庫補助事業の成果としてこれら調査成果を提出した。平成27年度以降も、市単独事業として伊予市内遺跡詳細分布調査が実施されることになった。

## 第2節 調査の体制

平成27・28年度の調査体制は、以下のとおりである。

表1 伊予市遺跡詳細分布調査委員会

委員長	三吉秀充	愛媛大学先端研究・学術推進機構 埋蔵文化財調査室
委員	長井數秋	愛媛考古学研究所
委員	石岡ひとみ	愛媛県教育委員会 文化財保護課
委員	門田眞一	伊予市文化財保護審議会

オブザーバー：愛媛県教育委員会 文化財保護課

表2 伊予市教育委員会事務局社会教育課

	平成27年度	平成28年度	令和元年度
教育長	渡邊博隆	渡邊博隆	渡邊博隆
教育監理監	—	井上伸弥	武智茂記
事務局長	齋岡正直	齋岡正直	佐々木正孝
課長	森田誠司	森田誠司	山岡慎司
課長補佐	矢野真人	矢野真人	北岡康平
係長	北岡康平	北岡康平	田村政幸
主査	高橋二葉	高橋二葉	武智克弥
主任	水木崇行	水木崇行	—
文化財専門員	—	—	島崎達也
文化財整理指導員	沖野新一 西岡若水	沖野新一 西岡若水	—
臨時職員	—	—	松本美香

### 第3節 事業計画

市単独事業として最初の調査年度となった平成27年度は、調査計画を練り直すとともに、調査が不十分である伊予地区の古墳と古代窯跡、伊予市全域の山城、中山地区・双海地区の遺跡を主な調査対象として市内の踏査などを行い、実態の把握に努めることとした。

表3 事業計画一覧

	平成27年度	平成28年度
調査地	中山地区 伊予地区	中山地区 伊予地区
冬期調査	山城調査(双海地区)	山城調査(中山・双海地区)
普及啓発	市開発部局への周知 市民への周知	市開発部局への周知 市民への周知

平成27年度は、平成27年7月22日(水)に、第1回伊予市遺跡詳細分布調査委員会を開催して、平成27年度の事業計画(表3左)を提示し、平成28年3月24日(木)の第2回伊予市遺跡詳細分布調査委員会にて成果を報告した。

平成28年度は、平成28年6月8日(水)の第1回伊予市遺跡詳細分布調査委員会において事業計画(表3右)を提示し、平成29年3月16日(木)第2回伊予市遺跡詳細分布調査委員会にて成果を報告した。

### 第4節 調査の方法

主な調査方法は、現地踏査・現地確認と開発事業に伴う試掘調査および工事立会である。調査は伊予市教委の職員が担った。山城調査に関しては、日和佐宣正氏に調査を依頼し、地元の史談会や市民の協力を得て踏査を実施し、縄張り図を作成した。

## 第2章 調査地域の環境

### 第1節 地理的環境

伊予市は、平成17年(2005)に伊予市、伊予郡中山町、伊予郡双海町の3市町が合併して成立した。愛媛県のほぼ中央部に位置し、松山平野南西部から四国山地にかけての約195km<sup>2</sup>を市域とする。北で伊予郡松前町、東で伊予郡砥部町、南で大洲市・喜多郡内子町と接する。

伊予地区的東部には行道山や谷上山など標高300mから400m程度の山々が伊予断層に沿って北東—南西方向に連なる。伊予断層の北西にはゆるやかな扇状地や低位段丘が広がり、耕地として利用されている。伊予灘沿いには沖積低地が発達し、近年は松山市のベッドタウンとして宅地開発が進む。双海地区は、急峻な山々が伊予灘に迫り、狭小な沖積地や海岸段丘上に集落が点在する。上灘川沿いには、西南日本を外帶と内帯に分かつ中央構造線が東西に走る。中山地区は、標高700mから900m近くに達する高い山々が連なり、その間を縫うように肱川の支流である中山川とその支流が南北に流れる。

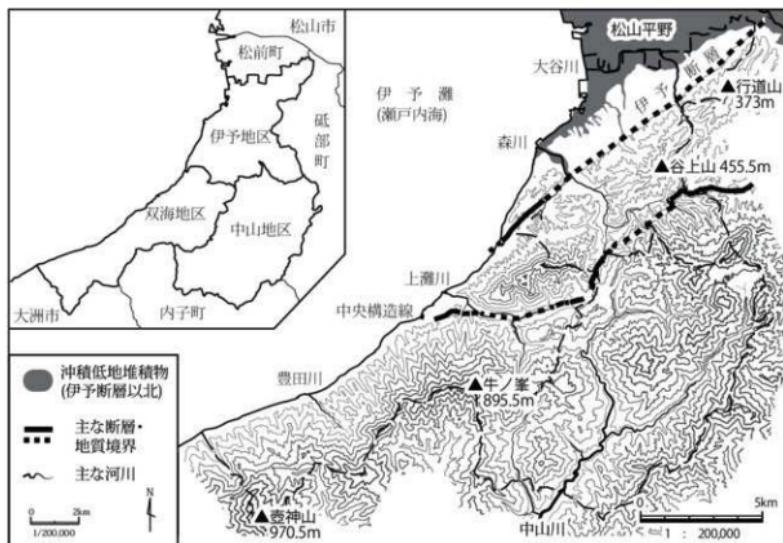


図1 伊予市周辺地形概要図(縮尺1/200,000)

## 第2節 歴史的環境

### 後期旧石器時代

双海地区的東峰遺跡第4地点では、始良Tn火山灰(AT：約2.8-3万年前)の下位から、台形様石器、石核、石斧、剥片などの石器が出土した。始良Tn火山灰降灰後との前後関係は不明瞭ではあるが、ナイフ形石器や角錐状石器などの石器が東峰遺跡第4地点と東峰遺跡第2a地点、双海地区的高見Ⅰ遺跡、高見Ⅱ遺跡、伊予地区的三秋新池遺跡より出土している(伊予市教委2019・財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター(以下、「埋文センター」と称する。)2000,2002・公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター(以下、「埋文センター」と称する。)2018)ほか、双海地区的串本村遺跡や本郷遺跡、唐崎遺跡、伊予地区的岩崎池南遺跡や征霑池遺跡でも石器が報告されている。東峰遺跡第4地点(2次)や高見Ⅰ遺跡(2次)では礫群が検出された。平松遺跡(伊予地区)では細石核が報告されている(埋文センター1993)。

### 縄文時代

草創期の遺跡は、伊予地区的嶺昌寺古墳にて草創期前半に帰属する有茎尖頭器が採集されている(得居・名本2012)。早期の遺跡は、東峰遺跡第4地点(埋文センター2002)、下長沢遺跡(中山地区)(伊予市教委2015)、上吾川八幡池遺跡(伊予地区)(兵頭2019)で報告例があり、特に高見Ⅱ遺跡においては、早期無紋土器が単独で出土する層と、無紋土器と押型文土器が共伴する層の双方が確認できた(兵頭2019)。高見Ⅰ遺跡(2次)では、逆茂木を伴う落とし穴が複数報告されている(埋文センター2018)。前期は、東峰遺跡第4地点で土器が出土しているほか、松前町の横田遺跡で深鉢が出土している(松前町教育委員会1996)。後期の遺跡として、東峰遺跡第4地点で中津式土器段階併行の土器が、高見Ⅰ遺跡では後期中葉の北白川上層式土器の深鉢が出土した。伊予地区でも後期や晚期の土器が報告されている(伊予市教委1993・埋文センター1987)。

### 弥生時代

弥生時代の遺跡は、伊予地区的平野部とその周辺に集中し、石包丁、蛤刃石斧、有柄式磨製石剣などが各地で報告されている。平松遺跡(埋文センター1993)、上三谷篠田・鶴吉遺跡(埋文センター2018)などで集落跡が報告されており、行道山遺跡(伊予市教委2005)は、松山平野を見下ろす標高373mの行道山山頂に位置する高地性集落である。向山遺跡からは中期末～後期初頭と推測される広形銅矛が出土している。

### 古墳時代

古墳は伊予地区に密集する。墳丘などは確認されていないものの、嶺昌寺古墳からは京都府椿井大塚山古墳第十七号鏡と同範の三角縁獸文帶四神四獸鏡が報告されている(富田2010)。中期の古墳としては、猪の窟古墳(伊予市教委1981)や、猿ヶ谷2号墳(埋文センター1998)が挙げられ、箱式石棺と多数の副葬品が確認されている。後期には尾崎天神下古墳や塩塚古墳、10基程度が

丘陵上に密集した伊予岡古墳群(伊豫岡古墳)など、横穴式石室の円墳や方墳がみられる。遊塚古墳などは前方後円墳の可能性がある。近代の開墾で消滅した古墳からは、鉄製品や人物埴輪、騎馬像付きの須恵器などが報告されている。5世紀には市場南組窯跡で初期須恵器の生産が始まるほか、集落遺跡としては池田遺跡(埋文センター2011)や蓼原遺跡(埋文センター2006)、上三谷篠田・鶴吉遺跡(埋文センター2018)などが挙げられる。

## 古代

古代の律令体制下において、伊予地区の平野部は伊予国伊予郡、中山地区・双海地区は、伊予国浮穴郡に属していたと考えられるが、詳細は不明である。官衙の所在については明確ではないが、平松遺跡からは刻書を有する円面硯が出土している(埋文センター1993)。八倉篠原廃寺(伊予市教委1991)など廃寺も存在し、市場かわらがはな古代窯跡群では、7世紀から9世紀にかけて瓦が生産され、四重弧文軒平瓦は上吾川古泉廃寺で使用された。伊予地区的堂ヶ谷経塚では久安6年(1150)の刻銘を有する金銅経筒が出土している。

## 中世

上三谷篠田・鶴吉遺跡では、鎬蓮弁文青磁碗や玉縁口縁白磁碗など輸入陶磁器が出土している(埋文センター2018)。中山地区では、藤繩之森三島神社の石鳥居遺構に応永9(1402)年の紀年銘が認められるほか、近くの福住集落では古瀬戸の瓶子と四耳壺が出土している(正岡1968)。加えて、市内各地には中世に帰属する石造塔が多数分布する(長井2018)。室町時代になると、伊予市内の各地で山城が築かれた。伊予地区的尼ヶ古城で15世紀の龍泉窯系の青磁碗や明錢(洪武通宝)、土師器の皿が出土している(埋文センター2001)以外は発掘調査が進んでいないが、土佐の長曾我部氏との攻防が伝承として各地に残る。

## 近世・近代

近世初頭の伊予地区は松山藩に、中山地区・双海地区は大洲藩に属していたが、寛永12年(1635)に領地の交換が行われ、伊予地区も御替地として大洲藩と支藩の新谷藩に帰属することとなる。伊予地区的郡中には港町が発展し、近世後期には、新谷藩の命により市場村で市場焼が生産された。明治期になると、伊予地区的三島村では三島焼の生産が盛んになり、大正期には伊予陶器株式会社の操業による大量生産と海外輸出により、伊予地区的窯業は最盛期を迎えた。双海地区や中山地区では陶石が採掘された。



## 第3章 平成27・28年度調査の概要

平成27年度の調査は、現地踏査・現地確認39箇所、試掘調査5箇所(6件)、工事立会2箇所であった。平成28年度の調査は、現地踏査・現地確認20箇所、開発に伴う試掘調査3箇所、開発に伴わない試掘調査1箇所、工事立会2箇所であった。

表4 平成27年度調査遺跡一覧

### 現地踏査・現地確認

No.	遺跡名	所在地	調査日	掲載頁	備考
317	東峰遺跡第4地点周辺	双海町上灘戊525-7外	平成27年4月9日・6月23日	—	
278	堂ヶ谷經塚	大平乙487-2外	平成27年4月9日	13	県指定
157	中御前五社1号墳	上三谷乙73-4	平成27年5月14日	—	
158	中御前五社2号墳	上三谷甲3524外	"	—	
166	客池1号墳	上三谷甲3271-1	"	—	
168	福昌寺古墳	上三谷甲3307	"	—	
248	中村古墳	中村甲224-13外	"	—	
112	伊予小学校遺跡周辺	上野	平成27年5月22日	—	
97	鬼渡瀬3号墳	上野2853-6	平成27年5月27日 8月27日	—	
104	鬼渡瀬Ⅲ遺跡	上野2853-1外	"	—	
26	猪の窟2号墳	宮下2037-4	平成27年5月27日	—	
32	猪の窟8号墳	宮下2051-15	"	—	
53	吹上の森1号墳	宮下2028-2	平成27年8月27日	—	
54	吹上の森2号墳	宮下2006-1	"	—	
55	吹上の森3号墳	宮下2006-4外	"	—	
56	吹上の森4号墳	宮下2006-3外	"	—	
52	伊曾能神社遺跡	宮下2006-1外	"	—	
106	鬼渡瀬2号墳	上野2023-1	"	—	
98	上野本村遺跡	上野1990-1外	"	—	
216	上吾川八幡池遺跡	上吾川甲494外	平成27年11月20・24日 平成28年2月10日	10	県指定史跡 に隣接
205	野津渡池遺跡	下三谷3590-1外	"	—	
A	米濱大池	米濱1469-1	"	11	
201	下三谷北組Ⅱ遺跡	下三谷1892外	平成27年12月9日	—	
90	土井池東遺跡	上野1354-1外	平成27年12月15日	—	
B	尾崎大人池周辺	尾崎498・540・523	平成27年12月15日 平成28年1月8日	11	
	尾崎大人池丘陵の頂部南側	尾崎540外	平成28年1月20日		
	尾崎大人池丘陵西北部の墓地	尾崎523	平成28年1月20日		
C	尾崎天神社丘陵東部	尾崎400・391-8	平成27年12月15日 平成28年1月20日	12	市指定史跡 に隣接
	尾崎天神社丘陵北部	尾崎391-8	平成28年1月8日		
	安久寺城跡	双海町上灘手468-1外	平成27年12月20日		
297	合之森城跡	中山町中山牛214-1外	"	18	
D	中山町大矢周辺	中山町大矢	平成27年12月28日	—	
E	中山町門前周辺	中山町門前	平成28年1月4日	—	
F	中山町栗田本郷周辺	中山町栗田	平成28年1月7日	—	
G	中山町佐礼谷中替地周辺	中山町佐礼谷	"	—	
251	尾崎天神下古墳周辺	尾崎天神下104-1外	平成28年1月8日	—	市指定
H	上灘窯跡	双海町上灘甲5535-2	平成28年1月14日	15	
310	立帽子岳城跡	双海町上灘乙83外	平成28年1月31日	17	遺構なし
I	本谷池	宮下1568-1	平成28年2月10日	—	
J	雁又池周辺	上吾川甲1790	平成28年2月16日	—	
K	伝宗寺	下三谷860	平成28年2月29日	—	
L	長泉寺墓地	宮下1563	平成28年3月1日	—	

## 試掘・確認調査

No.	遺跡名	所在地	調査日	掲載頁	備考
M	高野川ポンプ場	双海町高野川1541-3	平成27年5月29日	19	
317	東峰遺跡第4地点周辺	双海町上灘戸525-7外	平成27年6月24・25日	19	
318					
217	市ノ坪池遺跡周辺	上吾川甲1078-1 上吾川甲1078-4	平成27年10月22日 平成28年2月12日	23	
223	池田遺跡	下吾川1835	平成27年11月16日	25	
B	尾崎大人池遺跡	尾崎540外	平成28年3月7日	26	調査継続

## 工事立会

No.	遺跡名	所在地	調査日	掲載頁	備考
38	本谷池遺跡周辺	宮下	平成28年3月1・16日	—	
223	池田遺跡	下吾川681-1	平成28年1月27日	—	

表5 平成28年度調査遺跡一覧

## 現地踏査・現地確認

No.	遺跡名	所在地	調査日	掲載頁	備考
222	浜田遺跡	下吾川1451	平成28年4月5日	—	弥生土器
H	上灘空跡	双海町上灘戸5535-2	平成28年4月6日	15	
12	天王塚古墳	八倉912	平成28年5月12日	—	
N	六反	上吾川甲1850	平成28年5月19日	—	
144	上三谷古墳周辺	上三谷甲1640-1	平成28年6月21日	—	
O	高岡集落	中山町中山	平成28年6月3日	31	
91	土井池南遺跡	上野1349-1	平成28年7月4日	—	石器
66	鶴津遺跡の北方一帯	宮下1507-1外	平成28年6月6・17・27日 平成28年7月16・20日	33	
104	兔渡瀬Ⅲ遺跡	上野2853-1	平成28年9月23日	—	
178	岩崎池南遺跡	下三谷3333	平成28年10月3日	—	
52	伊曾能神社遺跡	宮下1980-4	平成28年10月17日	—	
P	初ヶ谷池	上吾川乙44-77	"	—	
38	本谷池遺跡	宮下1568-1	"	—	
223	池田遺跡	下吾川679-6外	"	—	
200	下三谷北組Ⅰ遺跡	下三谷1617-1	"	—	
216	上吾川八幡池遺跡	上吾川甲494	平成28年11月18日	—	
Q	黒瀧城跡	中山町中山4号45-3外	平成29年1月21日	31	
R	陣ヶ森古	中山町中山9号155-1外	"	31	
S	天山下城跡	中山町中山7号303-4外	"	30	天山城に近接
305	黒山城跡	双海町大久保乙139-4外	平成29年2月4日	29	

## 試掘調査

No.	遺跡名	所在地	調査日	掲載頁	備考
317	東峰遺跡第4地点周辺	双海町上灘戸203-1外	平成28年9月29・30日 平成28年10月13日	36	
138	上三谷遺跡	上三谷甲1695-17	平成28年6月20日	32	
52	伊曾能神社遺跡	宮下1980-4・1980-5	平成28年9月7日	34	
66	鶴津遺跡の北方	宮下1507-1・1507-2	平成28年7月20日	33	

## 工事立会

No.	遺跡名	所在地	調査日	掲載頁	備考
38	本谷池遺跡周辺	宮下1568-1	平成28年9月23日 平成28年12月12日	—	
223	池田遺跡近接地	下吾川834-1	平成28年5月16・17日	—	

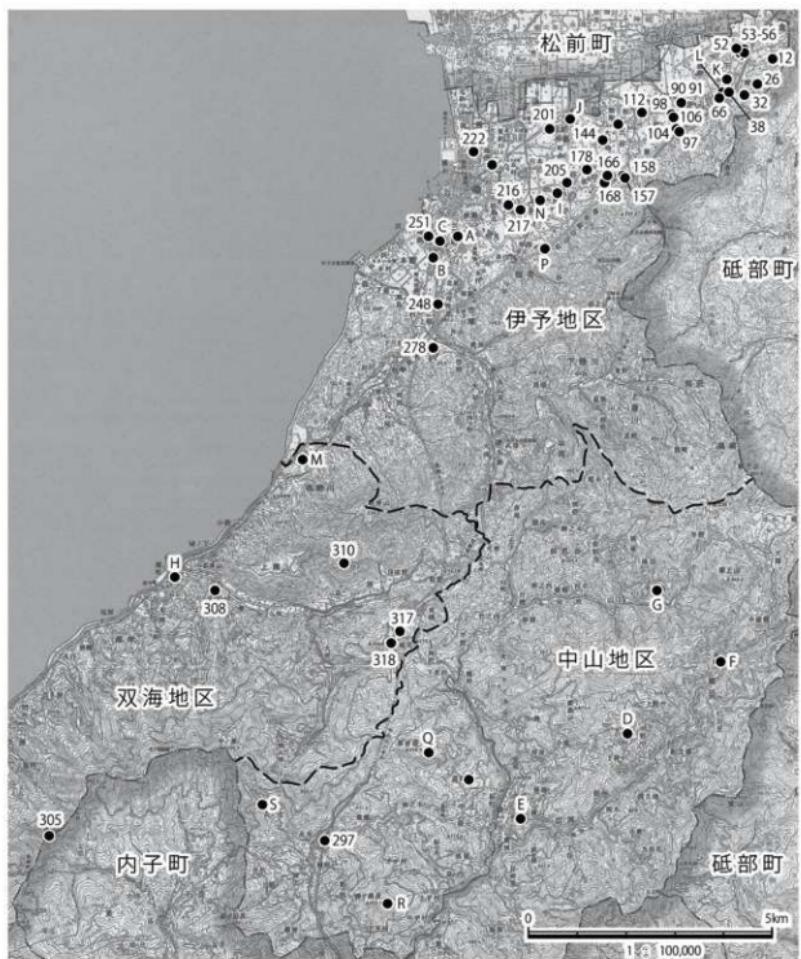


図2 調査遺跡位置図(縮尺1/100,000)

## 第1節 平成27年度調査

### (1)現地踏査の成果

#### 1 上吾川八幡池遺跡(上吾川)包蔵地番号216

本遺跡は、扇状地の先端近くに位置する溜め池(八幡池)内にある。伊予岡古墳群(包蔵地番号220 伊豫岡古墳として史跡に県指定)や、近世に広大な社領を有した伊豫岡八幡神社に隣接することから、特に重要な遺跡である。池内の踏査により、陶磁器、須恵器、丸瓦、緑色片岩礫、

剥片石器など多数の遺物を採集した。須恵器は多数得られており、多くは小片であるが、器形が復元できるものは、高環の脚部(1)や环身(3)、つまみ付きの蓋(2)、甕(4.5)が挙げられる。6世紀後半頃の須恵器であると推定できる。赤色珪質岩製の石器も確認でき、石鏃(8)と縱型の石匙(7)は縄文時代の遺物であることから、本遺跡の年代が縄文時代まで遡ることが明確となった。



図3 上吾川八幡池遺跡調査地位置図(縮尺1/5,000)

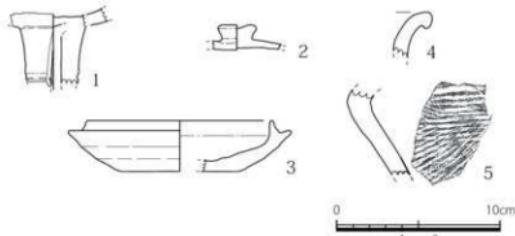


図4 須恵器実測図(縮尺1/3)

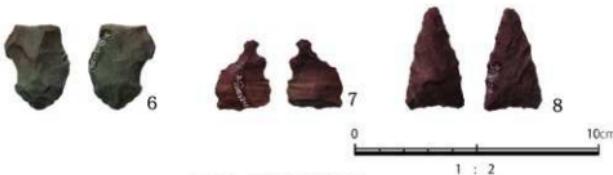


写真1 石器(縮尺1/2)

## 2 米湊大池(米湊)包蔵地番号一 図2のA(継続調査)

米湊大池(通称大池)は、扇状地の先端部に位置する溜め池である。踏査の結果、近代の陶磁器に加えて、窯道具(ハマ)1点を表面探集した。すぐ西側には、近代に窯業が盛んであった三島の集落が存在するため、今後も踏査を継続する必要がある。



図5 米湊・尾崎周辺調査地位置図(縮尺1/10,000)

## 3 尾崎大人池遺跡(尾崎)包蔵地番号一 図2のB(新規)

大人池(通称ひょうたん池)は、伊予市尾崎に位置する溜め池であり、西側には標高22.6mの丘陵(中位砂礫台地の一部)が隣接して、土手の西縁をなしている。この丘陵は現在の海岸線から700m程度の距離に位置し、踏査時には畠地(果樹園)として利用されていた。当時は周辺に周知の包蔵地が確認できていなかったが、平成27年度、大人池の改修工事とそれに伴う土取工事により、一帯の埋蔵文化財の有無を調査することとなった。試掘調査(本節第2項)に先駆けて、平成27年12月から翌1月にかけて大人池とその周辺で踏査を実施した結果、大人池内と、丘陵北西部の墓地、丘陵頂部南側の3箇所で遺物を表面探集した。

大人池では、近世から近代にかけての陶磁器片や窯道具(ハマ)に加えて、須恵器の小片2点を探集した。丘陵の頂部南側では、須恵器や土器の細片、赤色珪質岩製剥片などが得られた。須恵器の大半は磨耗した細片であるが、甕の胴部(4)や薄手の蓋(3)も確認できた。丘陵北東端の墓地では、須恵器や陶器が探集できた。須恵器は甕の胴部(7)や短頸壺の肩部(5)、环身の口縁部(1)、古代の蓋(2)などである。また、器面が黒色で胎土がにぶい赤褐色を呈する土器も2片確認できた(9,10)。器種は不明であるが、陶質土器の可能性がある。陶器(8)は備前焼の擂鉢で、乘岡(2000)編年で中世5期(15世紀後半)に相当する。従って、大人池とその周辺には、古墳時代の古い段階から古代・中世にかけての埋蔵文化財が存在するのが確実となった。

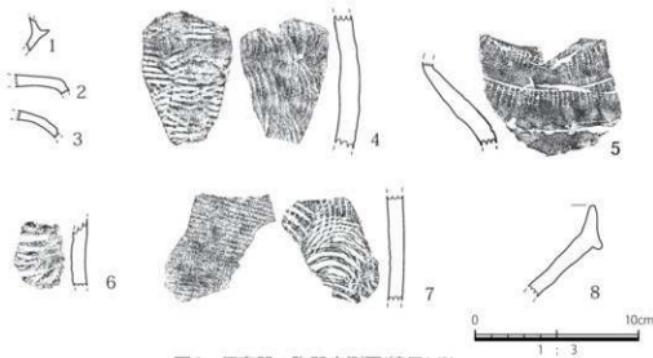


図6 須恵器・陶器実測図(縮尺1/3)

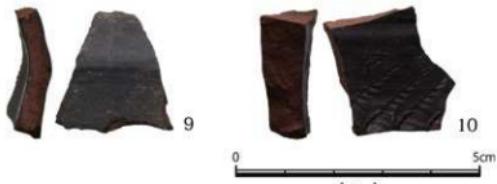


写真2 墓地表採土器(縮尺1/1)

#### 4 尾崎天神社遺跡(尾崎)包蔵地番号一 図2のC(新規)

尾崎天神社は、尾崎新池の北東の丘陵上(中位砂礫地)に位置する村社である。丘陵の北東部縁辺には、古墳時代後期末の円墳である尾崎天神下古墳(包蔵地番号251・市指定文化財)が位置する。尾崎天神社の北方と東方の2箇所で踏査を実施した結果、尾崎天神下古墳に近い丘陵北部は埴輪と須恵器の細片が採集できた。埴輪は、それぞれ別個体の朝顔形円筒埴輪の頸部(1)と肩部(2)であると考えられ、前者にはつまみ出しが弱いタガが観察でき、古墳時代後期のものである可能性がある。須恵器の蓋(3)や、図化しなかった須恵器の細片も、多くは古墳時代後期のものと思われる。一方、器種不明の薄手の須恵器片(4)には沈線文と波状文が認められ、より古い段階の須恵器と思われる。丘陵東部では古墳時代後期と推測される須恵器のほか、三島焼生産に関連すると思われる近代の型紙染付碗や足付ハマが表面採集できた(5.6.7)。従って、丘陵上に古墳時代と近代の埋蔵文化財が確認できた。なお、尾崎天神下古墳と近接するものの、現在は線路によって丘陵から分断されているため、包蔵地台帳の運用上、当遺跡は新規の包蔵地として扱うこととする。

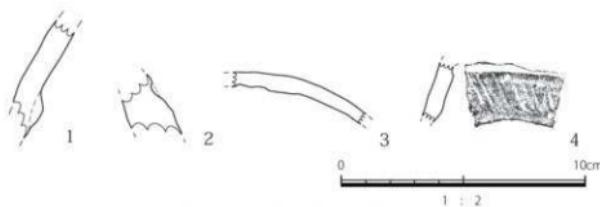


図7 土師器・須恵器実測図(縮尺1/2)



写真3 窯道具と型紙染付碗(縮尺1/2)

### 5 堂ヶ谷経塚(大平)包蔵地番号278

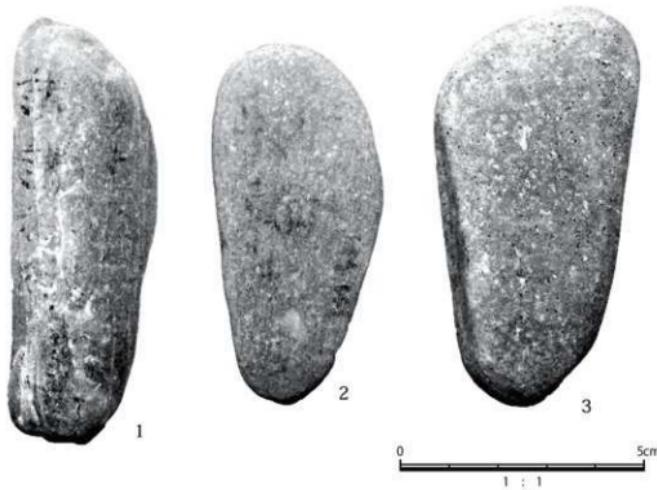
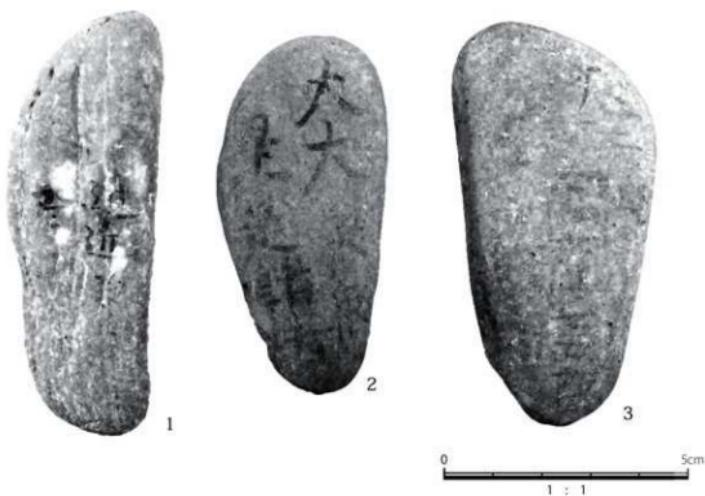
本遺跡は、昭和33年(1958)に、小起伏丘陵上の松林を開墾中に確認された経塚である。堂ヶ谷(堂ヶ谷)とは出土地一帯のホノギ(小字)名であり、集落名としては小野である。青銅鍍金製の経筒には在銘としては愛媛県内で最古となる久安6年(1150)の銘があり、内部に法華經と推定される経巻8巻が納入されている。昭和40年(1965)に県の有形文化財に指定された。このように古代末の伊予地区における仏教信仰を伺える重要な資料であるが、経筒そのもの以外については不明な点が多いのが現状である。平成27年度は現地を調査して現所有者(発見者のご子息)に聞き取調査を行った。



写真4 出土地点1



写真5 出土地点2



経塚発見の経緯については三宅(1963)の記載が詳しいが、現地調査と間取調査の結果、川原石による石積塚であること、経筒の埋納部分以外は開墾による破損を免れたこと、土を埋め戻した後に目印をついたこと、現場が手付かずで保存されていることが確認できた。

経石については、経筒発見の際に不在であった現所有者が、後日経塚を訪れるに、周囲に文字が書かれた礫が落ちており、5点を拾って持ち帰った。現在でもそれら5点の礫は手元にあるが、当時と比べて文字がかすれてしまったという。5点のうち縦長の礫3点に墨書を確認した。残りの短寸な礫2点には、墨の痕跡が確認できなかった。墨書が確認できる3点は、正岡(1965)が写真を掲載した礫であると推測され、複数の文字が書かれた多字一石経であることが確認できた。判読できる文字は「諸諸」「大大□□是諸□」などであるが、多くはかすれて判読不能である。近くの森川で採取可能な緑色片岩を素材にしたと思われる。

## 6 上灘窯跡(上灘)包蔵地番号一 図2のH(新規)

本遺跡は、上灘川の河口を見下ろす丘陵斜面に位置し、大内(1973)らによって報告されている。現状を確認するために平成27・28年度に踏査を行った結果、磁器の小片多数と窯道具であるハマ2点が採集できた。平成28年度には、土地所有者から過去に採集した資料の一部を借用して水洗した。

借用した資料は磁器の染付碗が多く、絵付には酸化コバルトを使用しており、手描きのものと型紙を用いたものが混在する。

碗の多くは歪んだり熔着しており、窯道具は使用した痕跡が残るハマと円柱状の焼台が確認できた。従って、当遺跡は窯跡であると評価できる。上灘周辺の近代窯業としては、陶石産地に近い高野川窯跡(幕末～近代 包蔵地番号301)や、高岸本郷の製瓦所(明治期～現代)の存在が知られている。沖野氏紹介の本覚寺出土磁器も本窯跡に関連すると考えられる(沖野2009)。上灘窯跡について現在把握できている同時代の資料としては、砥部町坪内家の慶応2年(1866)の水車帳に「上灘唐津山」の記載がある(砥部焼伝統産業会館1997)。土地所有者によると、昭和20年(1945)頃の時点では、斜面の下に戦時中の防空壕が2基あり、その上の斜面にレンガを四角く積んだ窯が壊れた状態で残っていた。昭和51年(1976)に斜面を石垣で補強する際に窯を削平し、削った土を付近の畠などに盛った。付近一帯で磁器や窯道具を拾って保管してきたが、窯が存在したのは1箇所のみである。

現砥部町の砥部焼における酸化コバルトの使用は明治8年(1875)頃から、型紙絵付技法が導入されたのは明治11年(1878)頃とされる(砥部焼伝統産業会館1997)。上灘窯跡採集資料には手描染付碗と型紙染付碗が熔着した資料も確認でき、2つの技法の過渡期のものであることがわかる



図8 上灘窯跡調査地位置図(縮尺1/5,000)

(写真11)。なお、明治26年(1893)頃に砥部焼に導入された銅版染付絵付技法は、現在のところ上灘窯跡採集資料には確認できない。また、天然貝殻による染付片も採集されているため、水車帳の記載と合わせて上灘窯跡が幕末期から明治時代中期まで操業していた可能性が高い。今後は、窯の残存状況と遺物の分布範囲の確認が課題となる。



写真8 平成27年度採集のハマ(縮尺1/2)

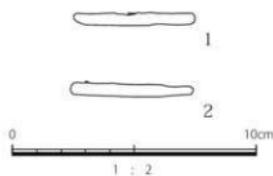


図9 ハマ断面実測図(縮尺1/2)



写真9 型紙染付碗(縮尺任意)



写真10 焼台(縮尺任意)



写真11 手描染付碗と型紙染付碗(縮尺任意)

## 7 安久寺城跡(双海町上灘)包蔵地番号308

安久寺城跡は『愛媛県中世城館調査報告書』では同市双海町久保の翠小学校のある尾根より西侧の尾根先端に比定されていたが、今回、地元住民の指摘により、双海中学校の南側の尾根頂部を踏査した。新たに比定された安久寺城は、伊予市双海町上灘にあり、南南西から北北東に派生する尾根の小高いところを中心としていると考えられる。標高は約141mで、明瞭な遺構はないが、中心部の北東側は1m足らずの切岸がある。さらに南側鞍部に上端幅1.7m、深さ0.3mの堀切があり、堀切の中心部は深さ30cm程度で岩盤にあたることから、本来は0.6mの深さがあったようである。



図10 安久寺城跡縄張り図(縮尺1/2,000)

## 8 立帽子岳城跡(双海町上灘)包蔵地番号310

立烏帽子城跡は、伊予市双海町の上灘川中流北岸にある標高536.2mの立烏帽子岳山頂(四等三角点「一の宮」標高536.32m)にあると『愛媛県中世城館調査報告書』で報告されているが、山頂一帯には何ら人工的地形改変の痕跡はない。念のため、その北西約500mの標高631mの丘陵を踏査したが、西側尾根先端に秋葉神社が祀られ、東側頂部も南北に緩慢な切岸状の落ち込みがあるものの、東西の尾根ラインには切岸などの防御遺構は見られず、城郭とすることには無理がある。

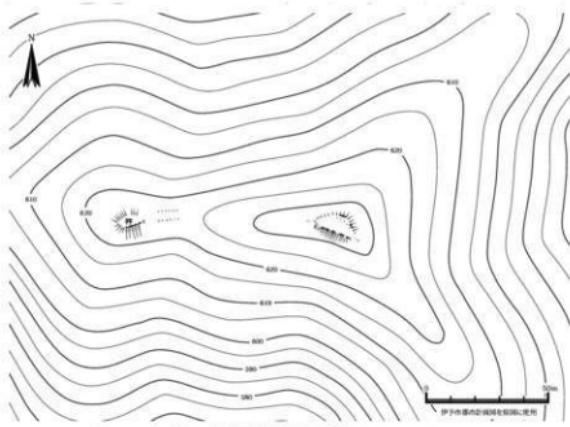


図11 立帽子岳城跡縄張り図(縮尺1/2,000)

#### 9 合之森城跡(中山町中山)包蔵地番号297

合之森城跡は、中山川支流の藤郷川中流東岸にあり、西岸の伊予市中山町中山の永木集落にから伸びる尾根の先端、標高約330m一帯にあるとされる。尾根は東西約160m、南北約50mの丘陵で、丘陵上の平坦地は殆ど開墾されて畑になっており、西の先端部のみ旧地形をとどめている可能性があり、西側と南側が切岸状であるものの、畑の南北は切岸は見られず、東側にも堀切ではなく、城郭遺構を断定できるだけの痕跡はとどめていない。

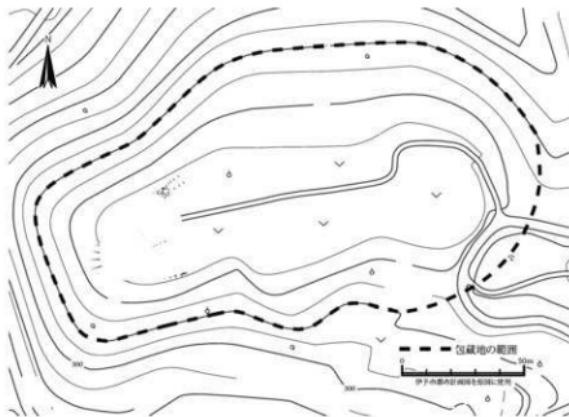


図12 合之森城跡縄張り図(縮尺1/2,000)

## (2) 試掘調査の成果

### 1 高野川ポンプ場

調査地 伊予市双海町高野川甲541番地3(包蔵地番号一)図2のM

調査期間 平成27年5月29日(金)

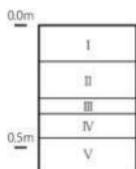
調査原因 ポンプ場建設

調査概要

付近で弥生土器などが報告されている(伊予市教委2014)ため、ポンプ場建設に際して海岸段丘(中位砂礫台地)にトレンチを1箇所設定した。結果、埋蔵文化財は認められなかった。従って、本事業地においては、埋蔵文化財が存在する可能性は低い。



図13 高野川調査地位置図(縮尺1/2,500)



- I 暗褐色土 10YR3/3 耕入土  
II 黄褐色粘土 10YR5/8(マンガン斑一部混入)  
III 灰褐色粘土 10YR4/2(マラスチック片混入)  
IV オリーブ褐色粘土 2.5Y4/6(マンガン斑一部混入)  
V 硅藻じり暗褐色粘土 7.5YR3/4

図14 土層柱状図(縮尺1/20)



写真12 トレンチ土層断面

### 2 東峰遺跡第4地点周辺(平成27年度)

調査地 伊予市双海町上灘(包蔵地番号317)

調査期間 平成27年6月24日(水)、6月25日(木)

調査原因 四国縦貫自動車道における(仮称)中山スマートインターチェンジ建設

調査概要

本事業地は、周知の埋蔵文化財包蔵地に近接するため、試掘トレンチを10箇所設定した。平成7年に埋文センター(2002)が東峰遺跡第4地点・高見1遺跡の発掘調査の発掘調査を実施していることから、当時の調査担当者の助言を得て、既発掘調査区基本土層との対比も行った。



図15 東峰遺跡第4地点周辺調査地位置図(縮尺1/10,000)

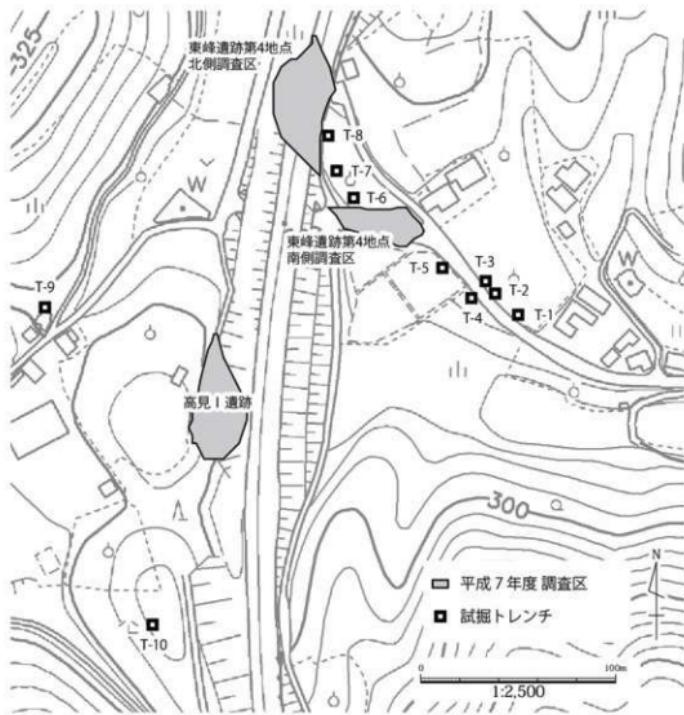


図16 平成27年度調査地位置およびトレンチ配置図(縮尺1/2,500)

T-1：Ⅰ層は整地層、Ⅱ層は表土である。Ⅲ層は、平成7年の東峰遺跡第4地点調査(以下、「過年度調査」と記載する。)の基本土層の「Ⅱ層(縄文時代)」に相当する。Ⅳ層は過年度調査の基本土層の「Ⅲ層(後期旧石器時代)」に相当すると考えられる。Ⅴ層は、Ⅱ・Ⅲ層よりも粘性が強く、過年度調査の基本土層の「Ⅳ層(後期旧石器時代AT下位)」に相当する可能性がある。Ⅵ層は過年度調査で遺構・遺物共に確認できなかった層位であるため、掘削を中止した。遺物・遺構は認められなかった。

T-2：Ⅰ層は表土である。Ⅱ層は、若干色調が異なるもののT-1のⅢ層と同質の土層であり、過年度調査の基本土層の「Ⅱ層(縄文時代)」に相当する。Ⅲ層は、T-1のⅣ層と同質の土層であり、過年度調査の基本土層の「Ⅲ層(後期旧石器時代)」に相当すると考えられる。Ⅳ層は、礫混じりで粘性の強い土層でT-1のⅤ層に対比できる。

T-3：I～III層全てに近年の炭化物、プラスチックなどが含まれていたことから、攪乱と判断できる。深く攪乱が続いているため、地表下約80cmの深さで掘削を終えた。なお、排土中から緑色片岩が出土した。

T-4：I層は表土である。II層は無遺物層で、土質は過年度調査で遺物包含層の下位に相当する土層と同質である。III・IV・V層は礫混じりの粘性土で、無遺物である。本区は、丘陵平坦面と斜面部との変換部に当たる。以上から、周囲に埋蔵文化財が存在する可能性は低い。

T-5：I層は表土、II層はにぶい黄褐色を呈する粘性土である。III層は、遺物などは認められなかったものの、過年度調査の基本土層の「II層(縄文時代)」に相当すると考えられる。IV層は、過年度調査の基本土層の「IV層(後期旧石器時代AT下位)」に相当する。

T-6：I層は表土である。II層は明褐色粘性土で、過年度調査の基本土層の「II層(縄文時代)」に対比できる土がブロック状に混入している。このことから、II層は東側斜面からの流れ込みによる二次堆積だと考えられる。III層は丘陵の基盤層と考えられる。遺構・遺物は検出されなかつた。

T-7：I層は表土である。II・III・IV層は、色調が若干異なるものの、いずれも粘性土で、流れ込みによる二次堆積土である。V層は丘陵の基盤層と考えられる。遺構・遺物は検出されなかつた。

T-8：I層は表土である。II層は明褐色粘性土であり、T-6のII層同様、東側斜面からの流れ込みによる二次堆積とを考えられる。III層は丘陵の基盤層と考えられる。遺構・遺物は検出されなかつた。

T-9：高見I遺跡の西に狭い谷を隔てて近接する丘陵の平坦部に設定した。I層は表土、II層は西側斜面から流れ込みによる二次堆積土、III層は粘性の強い土層である。動物により攪乱された近くの穴にも、遺構・遺物は認められなかつた。

T-10：高見I遺跡の南側丘陵頂部の平坦部に設定した。I層は表土、II層は攪乱、III層は丘陵の基盤層と考えられる。いずれも遺構・遺物は認められなかつた。トレンチの周辺においても遺物を表面採集できなかつた。

まとめ：T-1～T-3では、過年度調査東峰遺跡第4地点の基本土層の「II層(縄文時代)」および「III層(後期旧石器時代)」に相当する層位が認められたことから、周辺には少なくとも2面の遺物包含層が存在する可能性が高い。また、T-1～T-3が位置する平坦面は北側と東側に広がっており、遺物包含層も同様に広がっている可能性が高い。T-4では、遺物も過年度調査の遺物包含層に相当する土層も認められず、埋蔵文化財が存在する可能性は低い。T-5では、過年度調査の基本土層の「II層(縄文時代)」に相当する土層と「IV層(後期旧石器時代AT下位)」に相当する土層が確認できた。従って、周辺には2面以上の遺物包含層が存在する可能性が高い。なお、遺跡はT-5の西側に広がると考えられる。T-6～T-8では、いずれも過年度調査の遺物包含層に相当する安定した土層が確認できなかつたため、埋蔵文化財が存在する可能性は低い。ただし、東側の緩斜面においては埋蔵文化財が存在する可能性が高い。T-9では遺物・遺構は認められず、過年度調査の包含層に相当する土層も認められなかつた。過去に遺物が表面採集されたという記録もな

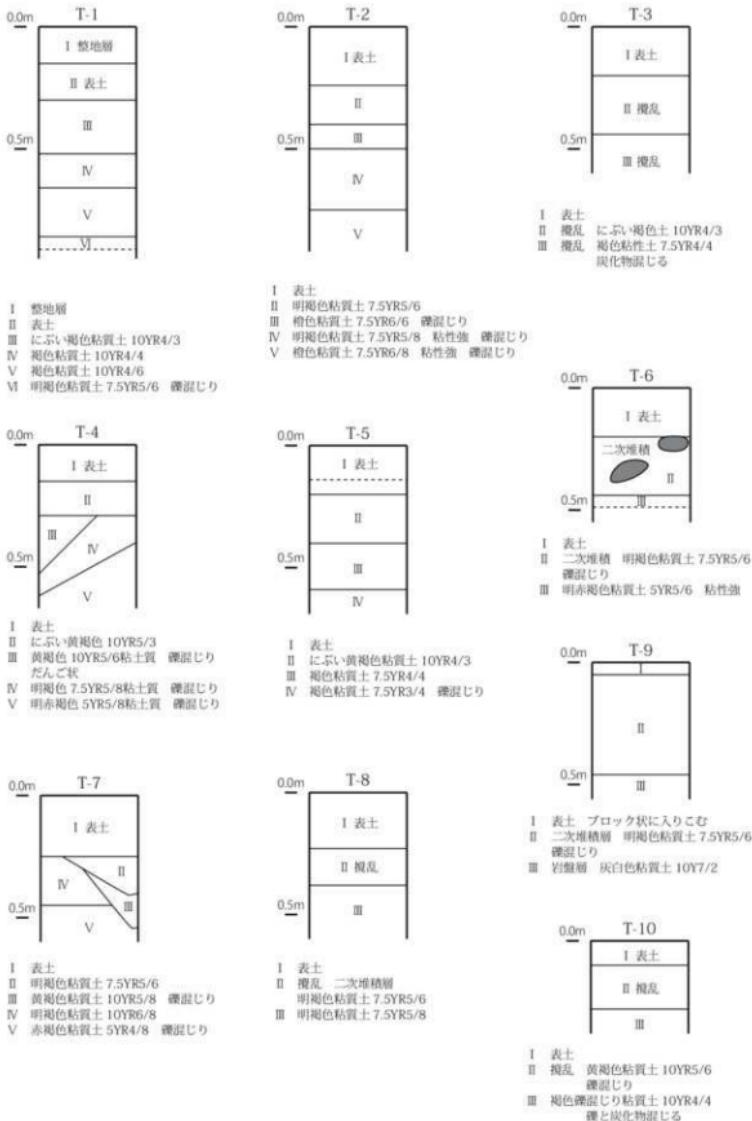


図17 土層柱状図(縮尺1/20)

い。従って、T-9周辺では埋蔵文化財が存在する可能性は低い。T-10では遺構・遺物が認められず、過年度調査の遺物包含層に相当する土層も認められなかった。県教委による近接地の試掘調査(平成27年度のT-4)においても遺構・遺物は確認されていない。従って、T-10周辺は埋蔵文化財が存在する可能性は低い。

### 3 市ノ坪池遺跡(10月調査)

調査地 伊予市上吾川甲1078-1(包蔵地番号217)

調査期間 平成27年10月22日(木)

調査原因 下水道管渠埋設

#### 調査概要

本事業地は、扇状地を開析する梢川沿いに位置する。試掘トレンチを2箇所設定した。T-1においては、遺物・遺構は検出されなかった。T-2はⅡ層より近代以降の陶磁器片が2点出土したが、遺構は検出されなかった。従って、本試掘対象区域においては、埋蔵文化財が存在する可能性は低い。



図18 市ノ坪池遺跡調査地位置およびトレンチ配置図(縮尺1/5,000)

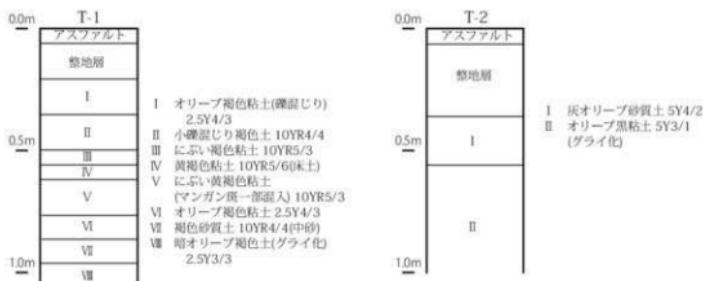


図19 土層柱状図(縮尺1/20)



写真13 T-1土層断面



写真14 T-2土層断面

#### 4 市ノ坪池遺跡(2月調査)

調査地 伊予市上吾川甲1078-4(包蔵地番号217)

調査期間 平成28年2月12日(金)

調査原因 住宅建設

調査概要

試掘トレンチを2箇所設定した。T-1は調査地西側に設定した。VI層とVII層は、梢川の氾濫によ



写真15 T-1土層断面



写真16 T-2土層断面



図20 土層柱状図(縮尺1/20)

るものと推測される。遺構は検出されなかった。T-2は事業予定地東側に設定した。遺物・遺構は検出されなかった。従って、試掘対象区域においては、埋蔵文化財が存在する可能性は低い。

## 5 池田遺跡

調査地 伊予市下吾川835番地外(包蔵地番号223)

調査期間 平成27年11月16日(月)

調査原因 住宅造成

調査概要

本事業地は標高約4mを測る扇端部に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地である池田遺跡の範囲に含まれる。池田遺跡は平成21年度に埋文センター(2011)による発掘調査が実施されており、標高2~2.6m前後の微高地に形成された古墳時代後期の集落が確認されている。この微高地は、JRの線路に沿うように伸びる南北幅40m程度の段丘礫層に形成されたと推定される。このため、本試掘調査では、集落の基底層となる礫層の確認が重要となる。トレーナーを2箇所に設定して試掘調査を実施した。T-1(0.5m×2.7m)とT-2(0.4m×2.6m)において湧水が出る礫混じりの層まで掘削したが、ともに遺物・遺構は検出されなかった。以上の結果から、本試掘対象区域においては、池田遺跡の広がりは確認できず、埋蔵文化財が存在する可能性は低い。

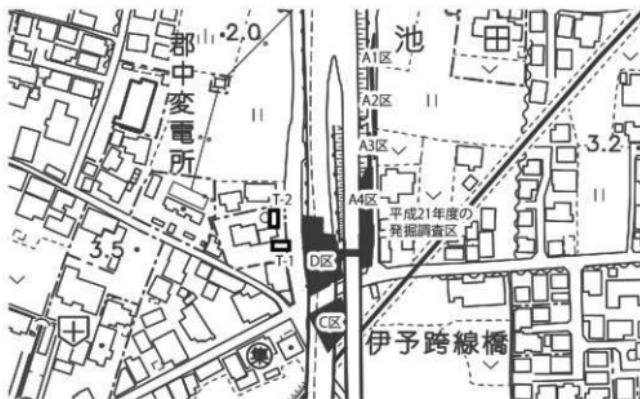


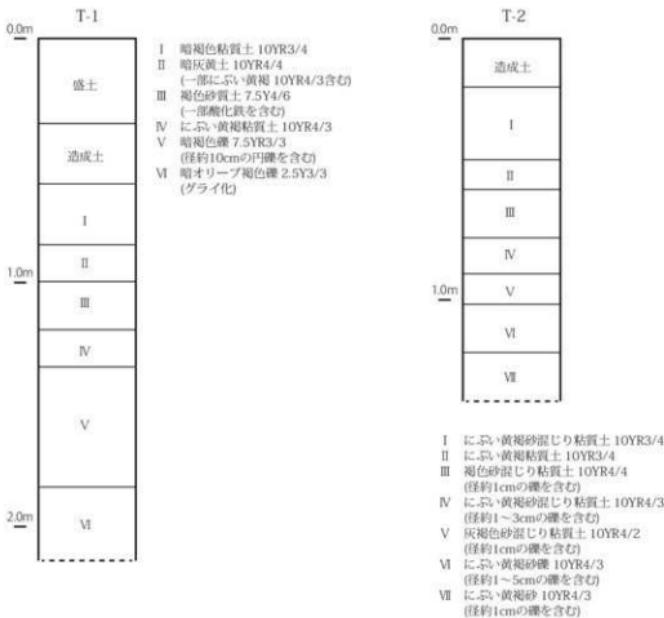
図21 池田遺跡調査地位置およびトレーナー配置図(縮尺1/2,500)



写真17 T-1土層断面



写真18 T-2土層断面



## 6 尾崎大人池遺跡

調査地 伊予市尾崎540番地外(包蔵地番号－新規図2のC)

調査期間 平成28年3月7日(月)

調査原因 溝池改修工事に伴う土取

### 調査概要

大人池の溝池改修工事に伴い、西に隣接する丘陵が土取場として開発されることとなった。本事業地は、平成27年度の時点で周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれていなかったが、遺跡の立地に適しているため、事前に踏査を実施した。その結果(本節第1項)を受けて試掘調査を実施することとなった。本事業地にトレーンチを5箇所(T-1～T-5)設定した結果、埋蔵文化財は認められなかった。従って、本試掘対象区域においては、埋蔵文化財が存在する可能性は低いと判断した。しかし、本事業地の南側の畠地や丘陵の縁辺部において試掘調査に先立ち遺物が採集されているため、今後も踏査を継続する必要がある。



図23 尾崎大人池遺跡調査地位置およびトレーンチ配置図(縮尺1/2,500)



写真19 T-1土層断面

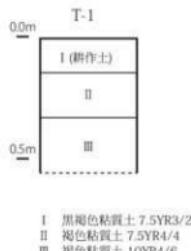


写真20 T-3土層断面

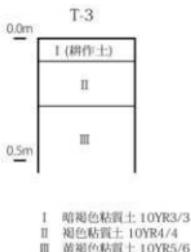


写真21 T-5土層断面

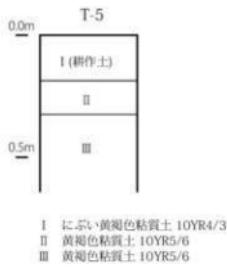


図24 土層柱状図(縮尺1/20)

## 第2節 平成28年度調査

### (1)現地踏査の成果

#### 1 黒山城跡(双海町大久保)包蔵地番号305

黒山城跡は、伊予市双海町と内子町との境にある城で、牛ノ峯(標高895.5m)から西に伸びる尾根の中の頂部黒山(三等三角点「大久保」標高729.81m)にある。

主郭(郭Ⅰ)は西側が尖ったほぼ楕円形で、東西長軸約28m、南北短軸約18mである。主郭の西側には下部のみ掘り込まれた堀切があり、堀底と郭面との比高は5.5mを測る。郭Ⅰの東側切岸は極めて急傾斜で、6.0mほど比高がある。切岸下部の一帯は整地が曖昧な空間が広がっており、2.5mの高さの曖昧な切岸を東に降りると整地された平坦面(郭Ⅱ)が三日月状に広がっている。高さ2.0mの切岸を介して郭Ⅲがあり、この郭Ⅲの東側切岸は高さ5.5mを測り、急傾斜の切岸である。このような形状は、東の尾根続きから来る敵勢に正対するように配慮したものと考えられる。このように黒山城跡は尾根の西へ東へも対処できる繩張りとなっている。

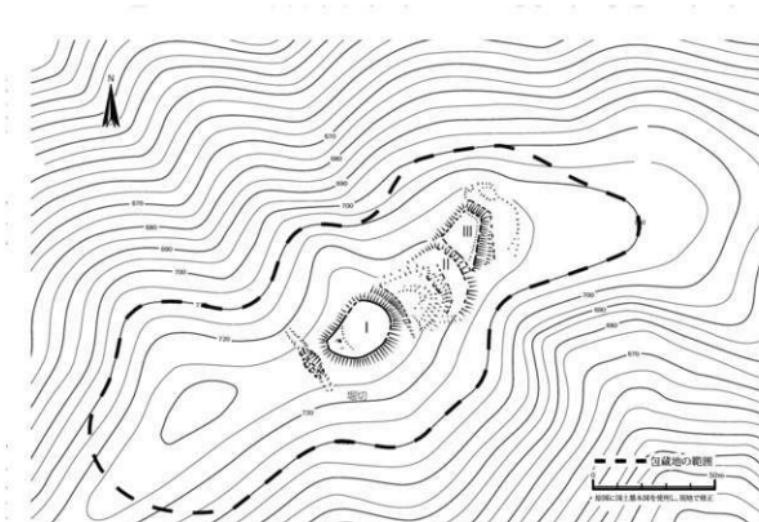


図25 黒山城跡繩張り図(縮尺1/2,000)

## 2 天山下城跡(中山町中山)包蔵地番号296の近く 図2のS

これまで報告されていなかった城郭である。天山城跡の東南東約400mに位置する新規の包蔵地として扱う。

城地は天山城跡を頂として東に伸びる尾根上の先端頂部にある。尾根が一端緩やかになるとここに市道が開削されている。城の東西を画する西の切岸と東の堀切間は東西長77mである。郭Ⅰの西側切岸は高さが4.5mあり、郭Ⅱとの間では1.5m程の切岸に近い斜面となっている。郭Ⅲは幅約3mの三日月状の平坦地で、この城では唯一といってよいくらいの整地で、東から登ってくる敵兵に対する足場として意識していた様子がうかがえる。

郭Ⅲの東の堀切は明確に軍事施設である。郭Ⅲから堀底までの比高は5.5mあり、北東と南西に竪堀が続いている。この城の最大の防御点が東の堀切であることから、西側の勢力が東側に備えていると評価できよう。つまり、この城は天山城の出城と理解するのが妥当である。

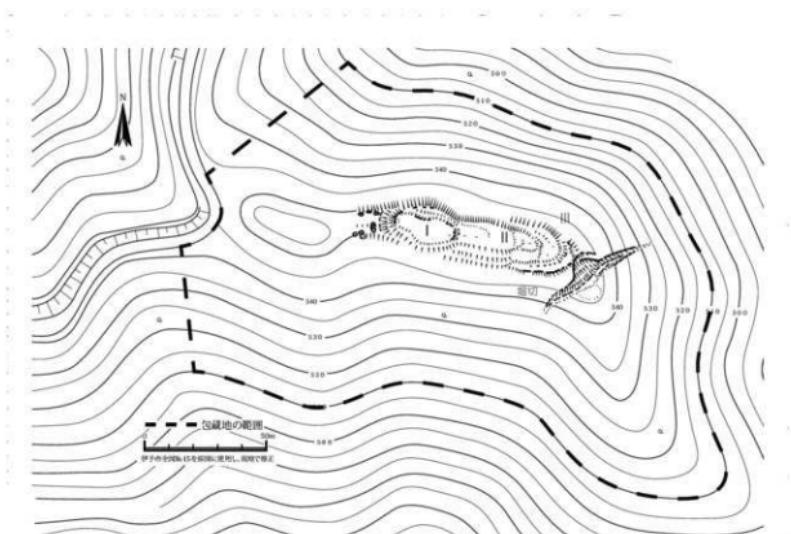


図26 天山下城跡縄張り図(縮尺1/2,000)

### 3 黒滝城跡(中山町中山)包蔵地番号一 図2のQ

伊予市中山町中山の黒岩岳を踏査した。山頂には三等三角点「中山」(標高698.99m)がある。車で走れる林道を登り切ると車5台分程度の駐車場があり、「黒滝さん」がまつられている。そこから西に山頂を目指すと標高696.7m(伊予市全図による)の小さな丘があり、地元ではこの場所が黒岩さんの山頂と考えられてきたようである。そこから北西に進むと、広い尾根の山頂がある。北に向かって緩やかに下る広い緩傾斜地である。城郭遺構は認められなかった。人工的な地形の改変は認められず、縄張り図作成には至らなかった。

### 4 陣ヶ森砦(中山町中山)包蔵地番号一 図2のR

伊予市中山町中山下平村の陣ヶ森岳を踏査した。伝承から城跡の遺構が存在する可能性があることから、山頂部周辺を踏査した。山頂部には三角点(三等三角点「長迫」、標高620.85m)がある。山頂部の東側には大師堂が設けられている。また、藏王権現の石像があり、石鎧藏王権現と考えられる。雨乞いの場でもあったようである。城郭遺構と判断できるような地形の改変は認められず、縄張り図作成には至らなかった。

### 5 高岡集落(中山町中山)包蔵地番号一 図2のO(継続調査)

黒岩岳の麓に位置する緩やかな尾根で踏査を実施した結果、土師器を表面採集した。小片のうえに摩滅しているが、微かな回転糸切痕が外底部に認められる。底径は推定6.6cm、底部の厚さは最大6.5mmで、体部が薄く、中世以降の皿と思われる。中山地区には山城が多数存在するにも関わらず、中世の遺物はわずかしか報告されていないため、貴重な成果といえる。尾根が位置する高岡集落は、大洲から永木を経て伊予地区に延びる旧大洲街道が近くを通るほか、鎌倉時代の作とされる阿弥陀如来像(市指定文化財)が祀られるなど、埋蔵文化財の存在が期待できる地域である。包蔵地範囲や年代を確定するには至っていないため、今後も調査を継続する必要がある。



写真22 土師器外底部(縮尺1/2)



図27 土師器実測図(縮尺1/2)

## (2) 試掘調査の成果

### 1 上三谷遺跡

調査地 伊予市上三谷甲1695番地17(包蔵地番号138)

調査期間 平成28年6月20日(月)

調査原因 個人住宅建設

調査概要

本事業地は標高約27mの扇状地に位置しており、現在は宅地である。試掘トレンチを4箇所に設定したが、今回の試掘調査では、T-1～T-4において遺物・遺構は検出されず、埋蔵文化財は認められなかった。従って、本試掘対象区域においては、埋蔵文化財が存在する可能性は低い。



図28 上三谷遺跡調査地位置図(縮尺1/5,000)

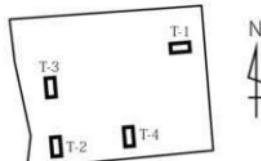


図29 トレンチ配置図(縮尺1/400)



図30 T-1土層柱状図(縮尺1/20)



写真23 T-1土層断面

## 2 総津遺跡の北方

調査地 伊予市宮下1507番地1,1507番地2(包蔵地番号66の近く)

調査期間 平成28年7月20日(水)

調査原因 学術調査

調査概要

総津遺跡は惣津池周辺に広がる周知の埋蔵文化財包蔵地である。その北方の山麓緩斜面に位置する畠地(包蔵地外)で、須恵器や備前焼、赤色珪質岩製片を表面探集した。須恵器は壺または碗の底部片が1点含まれる他は小片のみである。地権者の許可を得て試掘トレンチを5箇所に設置したところ、T-1・T-2・T-4において過去の基盤整備事業により地山が削平を受けていることが確認できた。一方でT-3とT-5においては、埋蔵文化財は確認できなかったものの、地山が削平を受けておらず、また、周囲で遺物が表面探集できることから、一帯に埋蔵文化財が存在する可能性は高い。



図31 総津遺跡の北方調査地位置およびトレンチ配置図(縮尺1/5,000)

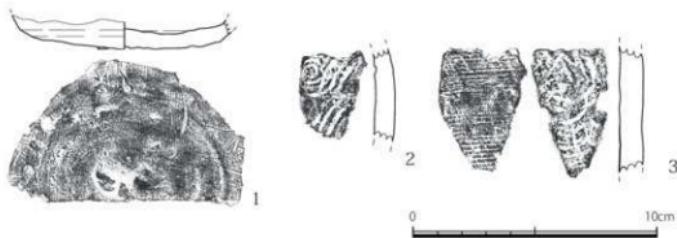


図32 須恵器実測図(縮尺1/2)

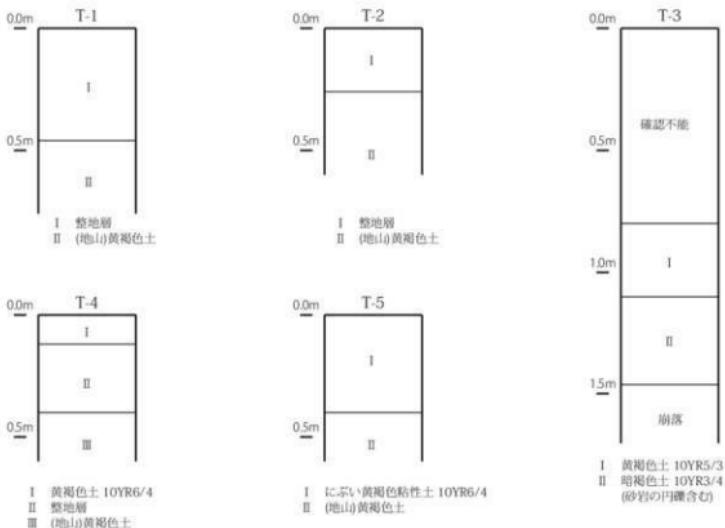


図33 土層柱状図(縮尺1/20)

### 3 伊曾能神社遺跡

調査地 伊予市宮下大字北谷1980番4,1980番5(包蔵地番号52)

調査期間 平成28年9月7日(水)

調査原因 個人住宅建設

#### 調査概要

試掘トレンチを4箇所に設定した。T-1・T-3において深さ約1mまでの地表が搅乱を受けており、T-1においてはその下に無遺物層が確認できた。T-2においてはI層より弥生土器の細片が出土しており、T-4においても同様の土層が確認できた。従って、本事業地の中央部から西部にかけての範囲には弥生時代の遺物包含層が残存することが確認できた。50cm程度の保護層が確保できるため、工事立会とした。



図34 伊曾能神社遺跡調査地位置図(縮尺1/10,000)

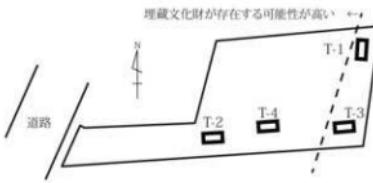


図35 トレンチ配置図(縮尺1/400)

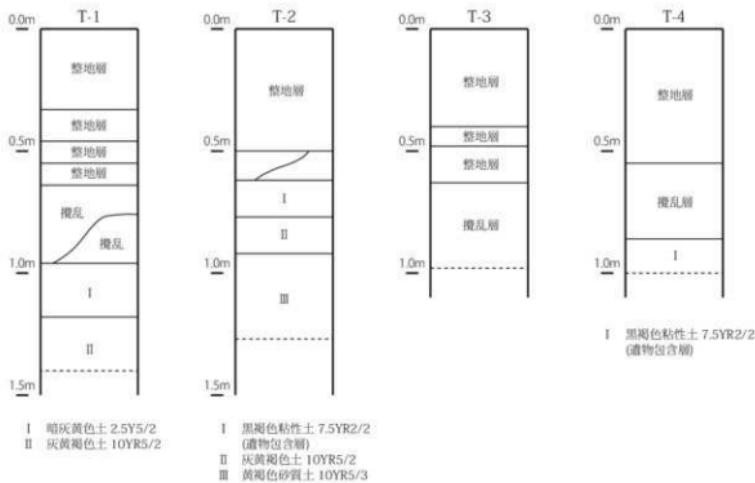


図36 土層柱状図(縮尺1/20)



写真24 T-1土層断面



写真25 T-2土層断面



写真26 T-4土層断面

#### 4 高見Ⅱ遺跡・東峰遺跡第4地点(平成28年度)

調査地 伊予市双海町上灘(包蔵地番号318)

調査期間 平成28年9月29日(木)・30日(金)

調査原因 四国縦貫自動車道における(仮称)中山スマートインターチェンジ建設

調査概要

東峰遺跡第4地点とその周辺の15箇所に試掘トレンチを設定した。平成7年に埋文センター(2002)が東峰遺跡第4地点の発掘調査(以下、「過年度調査」と記載する。)を実施していることから、基本土層との対比も行った。

T-1：I層は現耕作土であり、II層は近年の整地層である。III層は、整地が施される前の旧表土である。IV層は、基本的にはV層と土質が同一だが、III層が混じる。V層はにぶい黄褐色粘性土で、過年度調査の基本土層「III層(後期旧石器時代)」に相当する可能性が高い。

T-2：I層は表土であり、II層は近年の整地層でありプラスチック片が混じる。III層は、褐色の粘性土で、色調が若干異なるものの過年度調査の基本土層「III層(後期旧石器時代)」に相当すると考えられる。

T-3：I層は表土であり、II層は近年の整地層でありプラスチック片が混じる。III層は明褐色粘性土であり、過年度調査の基本土層「II層(縄文時代)」に相当する。

T-4：I層は表土であり、IIa・IIb層は、色調などが異なるものの、基本的には土質が同一の整地層である。III層は明褐色粘性土で、T-3のIII層とわずかに色調が異なるものの、ほぼ土質が同一であることから、過年度調査の基本土層「II層(縄文時代)」に相当する可能性がある。

T-5：I層は表土である。II・III層は近年の整地層でありプラスチック片が混じる。IV層は、緻密で締りのある粘性土(地山)である。

T-6：I層は表土である。II層は黄褐色粘性土で、後世の整地層である。III層は、硬くて緻密な明黄褐色礫混じりの粘性土(地山)であり、整地に際して地山がある程度削平を受けていると考えられる。

T-7：I層は焼色粘性土の整地層である。II層は、緻密で締りのある橙色粘性土(地山)である。

T-8：I層は表土である。II層は明褐色粘性土で、風化した角礫の結晶片岩が多数混入する。崖錐堆積物であると考えられる。I・II層共に、遺構・遺物は検出されなかった。

T-9：I層は表土である。II層は明褐色粘性土で、T-8と同様に角礫の結晶片岩と泥岩が多数混入している。I・II層共に、遺構・遺物は検出されなかった。

T-10：I層は表土である。II層は明黄褐色粘性土で礫の混入が少なく、過年度調査の基本土層「II層(縄文時代)」に相当すると考えられる。III層は、色調が若干異なるもののII層と土質が同じで、層の境も不明瞭であるため、過年度調査の基本土層「II層(縄文時代)」に相当すると考えられる。同層から長さ7cmの讃岐岩質安山岩礫が出土している。IV層は焼色粘性土で、径1cm程度の礫を含んでおり、過年度調査第4地点の基本土層「III層(後期旧石器時代)」に相当する可能性がある。IV層からは安山岩礫が11点、計約2.2kg出土している。V層は明褐色粘性土で、少數の礫を含んでいる。V層は過年度調査の基本土層「IV層(後期旧石器時代AT下位)」または「V

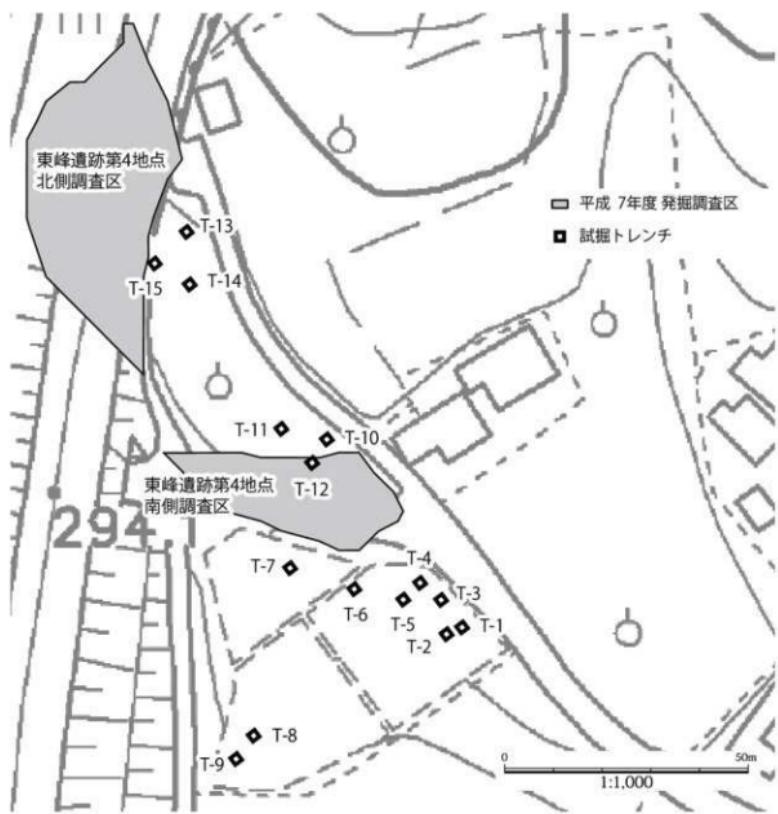


図37 平成28年度トレンチ配置図(縮尺1/1,000)

層」に相当すると考えられる。

T-11：Ⅰ層は表土、Ⅱ層は耕作などによる擾乱と考えられる。Ⅲ層は黄褐色粘性土で、過年度調査の基本土層「Ⅱ層(縄文時代)」に相当する。Ⅳ層は、Ⅱ層よりも若干明るい色調の粘性土で、過年度調査の基本土層「Ⅲ層(後期旧石器時代)」に相当すると考えられる。Ⅴ層は、明赤褐色粘性土で礫の混入は少なく、過年度調査の基本土層「Ⅳ層(後期旧石器時代AT下位)」に相当する可能性がある。Ⅵ・Ⅶ層は礫混じりの粘性土で、過年度調査の基本土層の無遺物層に相当すると考えられる。

T-12：地表面から25cm以上の深さでプラスチックが混入する整地層が確認されたことから、過年度調査の発掘調査区であると確認できた。

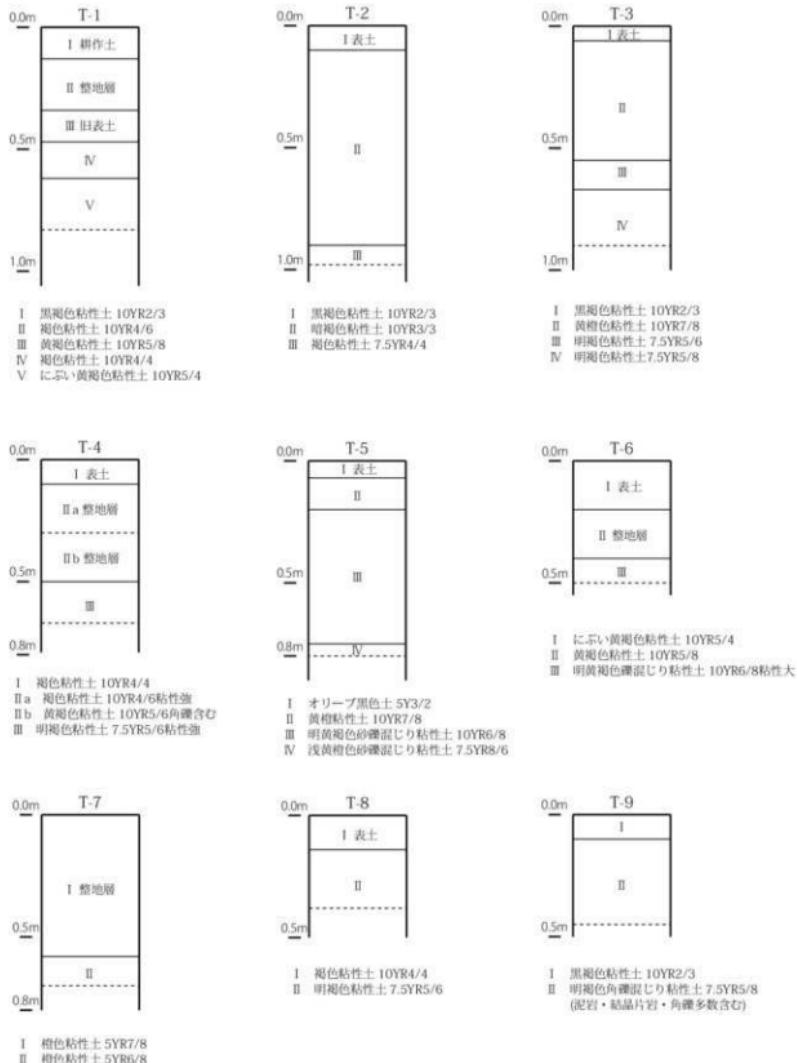


図38 土層柱状図 高見II遺跡周辺

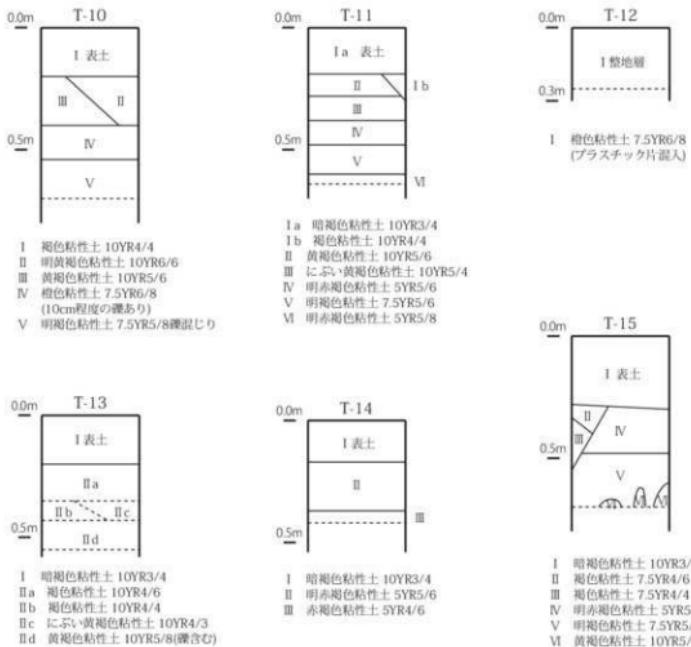


図39 土層柱状図 東峰遺跡第4地点

T-13：I層は表土である。IIa・IIb・IIc・IID層は、色調と礫の混入の有無においてわずかの違いがあるものの土質は同じであり、過年度調査の基本土層「II層(縄文時代)」に相当すると考えられる。

T-14：I層は表土である。II層は明赤褐色粘性土で、過年度調査の基本土層「II層(縄文時代)」に相当する。III層は赤褐色粘性土で、この層が過年度調査の基本土層「III層(後期旧石器時代)」に相当するかどうかは不明である。

T-15：I層は表土である。II・III層は、若干色調が異なるものの、土質が同じで共に径1cm程度の礫を含む。IV層は、T-14のII層と同一で、過年度調査の基本土層「II層(縄文時代)」に相当する。V層の明褐色粘性土は、他トレンチの過年度調査基本土層「III層(後期旧石器時代)」相当層と色調において若干異なるため断言はできないものの、後期旧石器時代の土層である可能性がある。

まとめ：T-1～T-5の周辺においては過年度調査の基本土層「II層(縄文時代)」と「III層(後期旧石器時代)」に相当する土層が確認できた。従って、埋蔵文化財が存在する可能性が高い。一方

で、T-6～T-9の周辺においては埋蔵文化財が存在する可能性が低い。T-10・T-11では共に、過年度調査の基本土層「Ⅱ層(縄文時代)」または「Ⅲ層(後期旧石器時代)」に相当する土層が確認できた。T-10のIV層で出土した安山岩の礫は遺跡周辺で産出しない石材であり、一部には使用痕が認められるため、礫石器とみなせるほか、平成27年6月に付近で赤色珪質岩製剥片を表面採集している。これらのことから、T-10・T-11周辺においては、埋蔵文化財が存在する可能性が高い。T-13～T-15は過年度調査の基本土層「Ⅱ層(縄文時代)」または「Ⅲ層(後期旧石器時代)」に相当する土層が確認できた。また、平成27年6月に大分県姫島産と推定される黒曜石製剥片などを表面採集している。これらのことから、T-13～T-15周辺においては埋蔵文化財が存在する可能性が高い。

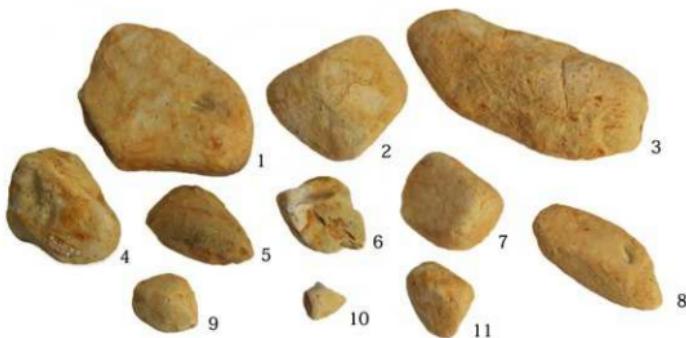


写真27 T-10 IV層出土安山岩礫石器(縮尺任意)

## 第4章 まとめ

伊予市単独事業として継続している伊予市内遺跡詳細分布調査であるが、平成27・28年度は一定の成果をあげることができた。まず、伊予地区では、市街地に近い尾崎にて広い範囲で遺物が採集できた。尾崎大人池遺跡における試掘調査では埋蔵文化財が確認できなかったものの、周囲に埋蔵文化財が存在する可能性が高い。また、中山地区の高岡集落や天山城の近くでも新たな遺跡が確認でき、中山地区的歴史を解明するうえでの重要な成果となった。上灘窯跡は、文献が乏しい双海地区における近代の窯業を今日に伝える貴重な遺跡であり、今後の調査の進展が望まれる。また、県指定文化財に関連する埋蔵文化財として、堂ヶ谷経塚や上吾川八幡池遺跡の情報も得られた。

一方で、伊予市内遺跡詳細分布調査には課題が山積となっている。特に、国庫補助事業の終了から5年が経過した今、包蔵地台帳の更新がほとんどなされておらず、包蔵地地図を刷新していく必要も生じている。双海地区・中山地区における分布調査は十分とはいはず、開発が進む伊予地区中心部における分布調査も緊急を要する課題である。これらの課題を念頭に、今後も伊予市内遺跡詳細分布調査を推進していきたい。

### 参考文献

1. 石岡ひとみ2012『伊予市三島焼の歴史と製品に関する一考察』『伊豫市の歴史文化』66 伊豫市歴史文化の会
2. 伊予市(未刊)『伊予市のホノギ』伊予市教育委員会所有
3. 伊予市教育委員会1981『猪の窟古墳 伊豫市猪の窟古墳発掘調査報告書』
4. 伊予市教育委員会1991『八倉篠原廐寺・八倉宮の北I・II遺跡及び上三谷平松埋蔵文化財調査報告書』
5. 伊予市教育委員会1993『下三谷片山・太郎丸埋蔵文化財調査報告書 県営圃場整備事業伊予東地区富田池工区』
6. 伊予市教育委員会2005『行道山遺跡』
7. 伊予市教育委員会2013『伊予市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ 平成23年度伊予市内遺跡発掘調査等事業報告書』
8. 伊予市教育委員会2014『伊予市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ 平成24年度伊予市内遺跡発掘調査等事業報告書』
9. 伊予市教育委員会2015『伊予市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ 平成25・26年度伊予市内遺跡発掘調査等事業報告書』
10. 伊予市教育委員会2019『高見II遺跡 東峰遺跡第4地点2次』
11. 伊豫市誌編纂委員会(編)1974『伊豫市誌』伊豫市
12. 伊豫市誌編纂委員会(編)1986『伊豫市誌』伊豫市
13. 伊予市誌編さん会2005『伊予市誌』
14. 伊予市文化財保護審議会(編)2011『いよしの文化財』伊予市教育委員会
15. 大内優徳1973『砥部焼の歴史研究—こぼればなし—』『愛媛の文化』13 愛媛県文化財保護協会
16. 沖野新一2009『双海のあけぼの』唐崎旧石器研究会

17. 愛媛県教育委員会(未刊)『四国縦貫自動車道(中山スマートIC)に関する工事に伴う埋蔵文化財の試掘調査報告書』2015年
18. 愛媛県教育委員会1987『愛媛県中世城館調査報告書』
19. 岡田敏彦2006『愛媛県内経塚覚書1』『紀要愛媛』第6号 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
20. 上灘村郷土誌編纂訂正委員(未刊)『上灘村郷土誌編纂原本』伊予市教育委員会所有1910年
21. 公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター2018『高見I遺跡2次』
22. 公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター2018『上三谷塚田・鶴吉遺跡』
23. 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター1987『上三谷古墳群 県営圃場整備事業(伊予東地区上三谷工区)埋蔵文化財調査報告書』
24. 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター1993『県道「伊予-川内線」関連埋蔵文化財調査報告書 平松遺跡 旗屋遺跡1』
25. 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター1998『四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書XII 伊予市編II』
26. 財団法人愛媛県埋蔵文化財センター2000『新池遺跡 市場南組窯跡 四国縦貫自動車建設に伴う道理蔵文化財発掘調査報告書 XIV 伊予市編III』
27. 財団法人愛媛県埋蔵文化財センター2001『尼ヶ古城跡・かわらがはな窯跡』
28. 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2002『東峰遺跡第2・4地点、高見I遺跡-四国縦貫自動車建設に伴う埋蔵文化財調査報告書 XVII 双海町編-』
29. 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2006『蓼原遺跡1・2次 主要地方道松山伊予線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』
30. 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2011『池田遺跡-一般国道56号伊予インター関連埋蔵文化財調査報告書-』
31. 財団法人松山市文化・スポーツ振興財団 埋蔵文化財センター(松山市考古館)2012『平成23年度特別展示会 祈りの器』
32. 得居浩司・名本二六雄2012『愛媛県伊予市上三谷採集の有茎尖頭器』『遺跡』46遺跡発行会
33. 砥部焼伝統産業会館(編)1997『砥部焼歴史資料(第1集)』
34. 富田尚夫2010『伊予市上三谷出土三角縁獸文帶四神四獸鏡について』『愛媛県歴史文化博物館研究紀要』15
35. 長井數秋1993『原始時代の伊豫市(一)』『伊豫市の歴史文化』28 伊豫市歴史文化の会
36. 長井數秋2018『伊予市内の中世様式の石造搭』『伊豫市の歴史文化』72 伊豫市歴史文化の会
37. 中山町誌編纂委員会(編)1996『中山町誌』
38. 日本地質学会(編)2016『日本地方地質誌7 四国地方』朝倉書店
39. 乗岡実2000『備前焼鑄鉢の編年について』『第3回中近世備前焼研究会』中近世備前焼研究会
40. 兵頭勲2019『縄文時代早期土器から見た高見II遺跡の意義』伊予市教育委員会『高見II遺跡 東峰遺跡第4地点2次』
41. 双海町1971『双海町誌』
42. 双海町誌編さん委員会(編)2005『双海町誌 改訂版』
43. 正岡健夫1965『堂ヶ谷經筒』『愛媛県金石史』愛媛県文化財保護協会
44. 正岡健夫1968『中山町文化財調査』『愛媛の文化』8 愛媛県文化財保護協会
45. 松前町教育委員会1996『横田遺跡 第2次調査報告書』
46. 三宅敏之1963『伊予市堂ヶ谷經筒』『日本佛教』18 日本佛教研究会

表6 掲載遺物観察表(土器など)

図	写真	番号	種別	器種	部位 残存率	法量(cm)	調整 施文		色調	備考
							外面	内面		
4	—	1	須恵器	高環	脚部	器高(4.9)	ヨコナデ	ナデ?	灰色	長脚二重 透かし?
4	—	2	須恵器	蓋	つまみ	つまみ径2.4 器高(1.5)	ヨコナデ	ナデ?	灰色	6世紀後半 頃
4	—	3	須恵器	环身	口縁部	口径(13.6) 器高3.1	ヘラ削り	ヨコナデ	灰色	6世紀後半 頃
4	—	4	須恵器	蓋	口縁部	器高(2.8)	ヨコナデ	不明	灰白色	6世紀後半 頃
4	—	5	須恵器	蓋	肩部	器高(5.2)	平行タタキ	ヨコナデ	黄灰色	6世紀後半 頃
6	—	1	須恵器	环身	口縁部	器高(2.2)	ヨコナデ	ヨコナデ?	灰黄色	
6	—	2	須恵器	蓋	—	器高(1.2)	ヘラ削り? 沈線	ヨコナデ	内:灰色 外:灰白色	
6	—	3	須恵器	蓋	—	器高(1.7)	ヨコナデ 沈線	ヨコナデ	内:灰色 外:にぶい赤褐色 胎土:にぶい赤褐色	
6	—	4	須恵器	蓋	胴部	器高(8.1)	平行タタキ	同心円文タタキ	胎土:にぶい黄褐色 内:灰白色	古墳時代
6	—	5	須恵器	短頸壺	肩部	器高(5.1)	ヨコナデ? 沈線 刺突列	ヨコナデ	灰黄褐色	古墳時代 後半~
6	—	6	須恵器	不明	不明	最大厚1.0	摩滅	同心円文タタキ	胎土:褐色 外:灰色	
6	—	7	須恵器	蓋	胴部	器高(7.1)	格子タタキ	同心円文タタキ	—	
6	—	8	備前焼	擂鉢	口縁部	口径(33.6) 器高(5.5)	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色	15世紀後半~終
—	2	9	陶質土器?	不明	不明	最大厚0.5	ヨコナデ	ヨコナデ	胎土:にぶい赤褐色 内・外:青灰色	
—	2	10	陶質土器?	不明	不明	最大厚1.0	ヨコナデ 開口	ヨコナデ	胎土:にぶい赤褐色 内:赤褐色 外:暗灰色	
7	—	1	土師器	朝顔形 円筒埴輪	頸部	器高(4.8)	ナデ?	ナデ?	黄橙色	古墳時代 後期
7	—	2	土師器	朝顔形 円筒埴輪	肩部	器高(2.5)	不明	指頭圧痕?	橙色	古墳時代 後期
7	—	3	須恵器	蓋	—	器高(2.1)	ヘラ削り	ヨコナデ	内:黄灰色 外:灰色 胎土:にぶい褐色	
7	—	4	須恵器	不明	不明	最大厚0.4	ヨコナデ 波状文	ヨコナデ	内・外:にぶい 黄色 胎土:灰色	
—	3	5	—	足付ハマ	完形	径6.3 器高1.6 厚さ0.9	—	—	にぶい黄橙色	近代 窯道具
—	3	6	—	足付ハマ	2/3	径5.7 器高1.4 厚さ0.7	—	—	にぶい黄橙色	近代 窯道具

図	写真	番号	種別	器種	部位 残存率	法量(cm)	調整 施文		色調	備考
							外面	内面		
-	3	7	磁器	碗	底部	底径4.1 器高(4.1)	型紙染付	型紙染付	-	近代
9	8	1	-	ハマ	完形	径5.0 器高・厚さ 0.5	-	-	にぶい褐色	近代 窯道具
9	8	2	-	ハマ	完形	径5.0 器高・厚さ 0.5	-	-	にぶい黄褐色	近代 窯道具
27	22	-	土師器	皿	底部	底径(6.6) 器高(1.1)	摩滅 系切痕	摩滅	浅黄橙色	中世
32	-	1	須恵器	环?	底部	底径9.1 器高(1.3)	ヘラ削り	ヨコナデ	灰色	
32	-	2	須恵器	不明	不明	最大厚0.8 力キ目?	力キ目?	同心円文タタキ	黄灰色	
32	-	3	須恵器	不明	不明	最大厚1.0 力キ目	力キ目	同心円文タタキ	内:灰色 外:灰白	

表7 掲載遺物観察表(石器)

図	写真	番号	器種	石材	残存率	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
-	1	6	二次加工剥片	赤色珪質岩	完形	3.5	2.8	0.9	8.9	縦長剥片の表裏両面から調整削離
-	1	7	石匙	赤色珪質岩	完形	2.9	2.3	0.7	3.5	縦型
-	1	8	石鑿	赤色珪質岩	完形	(4.2)	2.4	0.7	5.7	先端が欠損?
-	6.7	1	絆石	緑色片岩	完形	8.7	3.1	1.4	55.5	多字一石
-	6.7	2	絆石	緑色片岩	完形	7.5	3.6	0.8	32.3	多字一石
-	6.7	3	絆石	緑色片岩	完形	8.3	4.2	1.6	103.6	多字一石
-	27	1	礫石器	安山岩	完形	13.0	9.2	3.0	423.7	楔形凹部
-	27	2	礫石器	安山岩	完形	8.7	8.9	4.6	346.1	
-	27	3	礫石器	安山岩	完形	17.1	7.4	5.2	750.5	
-	27	4	礫石器	安山岩	完形	7.4	6.2	5.0	226.9	楔形凹部
-	27	5	礫石器	安山岩	完形	7.4	4.3	2.8	92.8	
-	27	6	礫石器	安山岩	完形	6.1	5.3	4.1	85.5	
-	27	7	礫石器	安山岩	完形	6.6	5.4	3.6	128.7	
-	27	8	礫石器	安山岩	完形	9.1	4.2	2.5	114.4	楔形凹部
-	27	9	礫石器	安山岩	完形	4.3	3.4	2.6	33.1	
-	27	10	礫石器	安山岩	完形	2.5	2.2	1.6	8.5	
-	27	11	礫石器	安山岩	完形	4.8	3.6	3.3	54.1	

## 報告書抄録

## 伊予市埋蔵文化財調査報告書

- 第1集『猪の塚古墳—伊豫市猪の塚古墳発掘調査報告書—』1981  
第2集『下三谷西原・ケリヤ遺跡—県営圃場整備事業(伊予東地区)埋蔵文化財発掘調査報告書—』1989  
第3集『武之宮・六反下・六反上遺跡—県営圃場整備事業(伊予東地区上吾川工区)埋蔵文化財調査報告書—』1990  
第4集『八倉篠原廃寺・八倉宮の北I・II遺跡及び上三谷平松埋蔵文化財調査報告書—農林業用揮発油税財源身替農道整備事業(上野3期地区) 県営圃場整備事業(伊予東地区上三谷平松工区)—』1991  
第5集『上吾川・森埋蔵文化財調査報告書—県営圃場整備事業(伊予西地区上吾川・森工区)—』1991  
第6集『下三谷片山・太郎丸埋蔵文化財調査報告書—県営圃場整備事業伊予東地区富田池工区—』1993  
第7集『下三谷片山・太郎丸埋蔵文化財調査報告書—下三谷北組地区改良工事—』1994  
第8集『行道山遺跡』2005  
第9集『平松遺跡3次』2011  
第10集『伊予小学校遺跡—伊予小学校管理教室棟改築に伴う仮設校舎設置工事にかかる発掘調査報告書—』2013  
第11集『伊予市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ—平成23年度伊予市内遺跡発掘調査等事業報告書—』2013  
第12集『伊予市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ—平成24年度伊予市内遺跡発掘調査等事業報告書—』2014  
第13集『伊予市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ—平成25・26年度伊予市内遺跡発掘調査等事業報告書—』2015  
第14集『高見Ⅱ遺跡・東峰遺跡第4地点2次—四国縦貫自動車道における(仮称)中山スマートインターチェンジの建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』2019

## 伊予市埋蔵文化財調査報告書 第15集

### 伊予市内遺跡詳細分布調査報告書IV

—平成27・28年度伊予市内遺跡発掘調査等事業報告書—

令和2年3月31日

編集・発行

愛媛県伊予市教育委員会

〒799-3193 愛媛県伊予市米淡820番地

TEL 089-982-1111(代表)

印刷

岡田印刷株式会社